

平成 28 年度

地域での地球温暖化防止活動

基盤形成事業委託業務

温室効果ガス排出実態調査

年次レポート

平成 29 年 3 月

一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット

(全国地球温暖化防止活動推進センター)

1. 調査の概要	1
2. 冷蔵庫調査結果	2
2.1 冷蔵庫の保有台数及び製造年代	3
2.2 冷蔵庫の大きさ及び中身の詰め具合	3
2.3 冷蔵庫の設定温度及び季節に合わせた設定温度の変更について	4
2.4 買替の予定と買替の基準（平成 28 年度調査分のみ）	5
2.5 冷蔵庫を購入する際に重視する点	6
2.6 省エネ行動の項目別実施率と省エネ行動選択数との関係	6
2.7 冷蔵庫を 2 台以上使用する理由と使用停止可能性（平成 28 年度調査分のみ）	7
2.8 冷蔵庫の製造年代と使用停止可能性との関係	9
2.9 冷蔵庫を 2 台以上保有している世帯の傾向	9
2.10 古い冷蔵庫の保有傾向	10
2.11 2 台目以降の冷蔵庫の使用停止可能性と世帯属性との関係	12
2.12 まとめ	13
3. 冷暖房調査結果	14
3.1 冷房（エアコン）の製造年代及び使用する部屋について	16
3.2 冷房（エアコン）使用率の推移	17
3.3 地域区分別冷房（エアコン）の使用時間	17
3.4 地域区分別冷房（エアコン）の設定温度	18
3.5 使用する暖房機器の種類と最も使用する暖房機器について	19
3.6 地域区分と使用する暖房機器の関係	20
3.7 最も使用する暖房の製造年代及び使用する部屋について	21
3.8 暖房使用率の推移	22
3.9 地域区分別暖房の使用時間	22
3.10 地域区分別暖房の設定温度	23
3.11 省エネ行動の項目別実施率と省エネ行動選択数との関係	23
3.12 冷暖房機器買替の予定及び買替の基準	24
3.13 世帯タイプと冷暖房機器の製造年代との関係	25
3.14 使用する機器の製造年代と建築年代の関係	27
3.15 省エネ行動と断熱設計の配慮との関係	28
3.16 省エネ行動と設定温度の関係	29
3.17 まとめ	30
参考資料	
●冷蔵庫の使用実態調査票	
●冷暖房の使用実態調査票	

1. 調査の概要

平成 28 年度地域での地球温暖化防止活動基盤形成事業委託業務において、家庭からの温室効果ガス排出実態の把握と普及啓発につなげる調査として、「冷蔵庫の使用実態調査」（以下、冷蔵庫調査という。）及び「冷暖房の使用実態調査」（以下、冷暖房調査という。）を実施した。調査項目の選定にあたっては、「平成 28 年度温室効果ガス排出抑制のための地域活動検討部会」において検討、決定した。冷蔵庫調査については、「平成 27 年度日常生活に関する温室効果ガスの排出実態調査検討部会」において調査を実施したが、一部質問項目を修正し、全国的なデータを収集することを目的に、追加調査を実施した。各調査に係る主な調査項目は表 1-1、表 1-2 の通り。なお、調査票については参考資料として末尾に添付する。

表 1-1 冷蔵庫調査における主な調査項目

調査項目	明らかにしたいこと
冷蔵庫保有台数	複数台保有する世帯の傾向把握
冷蔵庫の大きさ、詰め具合等	冷蔵庫の使い方把握
買替の予定・基準	古い冷蔵庫からの買替ポテンシャルの把握
2台以上使用する理由	複数台保有する世帯の傾向把握
2台目以降の使用停止可能性	使用停止ポテンシャルの把握
省エネ行動等	省エネ意識と冷蔵庫の使い方の関係把握

表 1-2 冷暖房調査における主な調査項目

調査項目	明らかにしたいこと
冷暖房に使用する機器	機器と地域・世帯との関係把握
冷暖房の使い方（期間、時間、温度）	使い方と地域・世帯との関係把握
夏場冬場の省エネ行動	省エネ意識と冷暖房の使い方の関係把握
買替の予定・基準	古い機器からの買替ポテンシャルの把握

2. 冷蔵庫調査結果

設計したアンケート票を全国の地域センターに配布し、調査を依頼した結果、2,949 件の調査票を得た。また、平成 27 年度に実施した冷蔵庫の使用実態調査結果を含めると、5,462 件となる(表 2-1)。調査対象世帯別世帯人数と世帯タイプは表 2-2、表 2-3 の通り。なお、世帯タイプについては平成 28 年度調査より追加した項目である。

表 2-1 地域区分別調査票回収件数(冷蔵庫)

地域区分 ¹⁾	該当件数	含まれる都道府県
I	239 件	北海道
II	312 件	青森県, 岩手県, 秋田県
III	583 件	宮城県, 山形県, 福島県, 栃木県, 新潟県, 長野県
IV	4,170 件	茨城県, 群馬県, 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 富山県, 石川県, 福井県, 山梨県, 岐阜県, 静岡県, 愛知県, 三重県, 滋賀県, 京都府, 大阪府, 兵庫県, 奈良県, 和歌山県, 鳥取県, 島根県, 岡山県, 広島県, 山口県, 徳島県, 香川県, 愛媛県, 高知県, 福岡県, 佐賀県, 長崎県, 熊本県, 大分県
V	155 件	宮崎県, 鹿児島県
VI	3 件	沖縄県
合計	5,462 件	47 都道府県

表 2-2 世帯人数内訳

種別	世帯数	構成比
1人世帯	504	9%
2人世帯	1,867	34%
3人世帯	1,264	23%
4人世帯	959	18%
5人世帯	424	8%
6人世帯	184	3%
7人世帯	60	1%
8人以上の世帯	32	1%
無回答	168	3%
合計	5,462	100%

表 2-3 世帯タイプ内訳

種別	世帯数	構成比
単身	268	9%
夫婦のみ	697	24%
夫婦のみ(65歳以上)	122	4%
親子	1,024	35%
親子(65歳以上)	352	12%
三世帯世帯	203	7%
その他の世帯	38	1%
無回答	245	8%
合計	2,949	100%

¹⁾地域区分は IBEC の「住宅事業建築主の判断基準における地域区分」をもとに実施。現行の地域区分の標記については算用数字による 1～8 区分に変更されているが、Ia, Ib, IVa, IVb の区分を実施していないため、旧標記のローマ数字を使用。

2.1 冷蔵庫の保有台数及び製造年代

冷蔵庫の保有台数を見ると、調査対象の約 25%が冷蔵庫を 2 台以上保有していることがわかった (図 2-1)。また、保有されている冷蔵庫を製造年代別に見ると、図 2-2 のようになる。

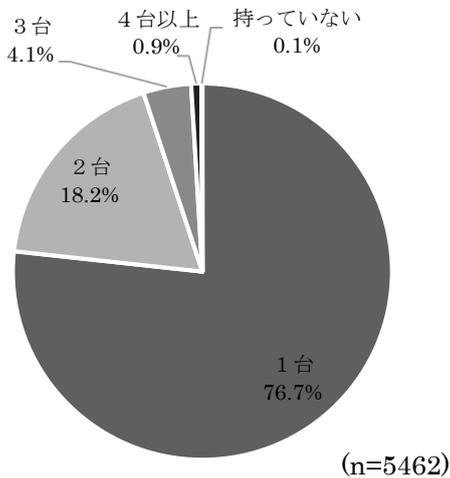


図 2-1 冷蔵庫の保有台数

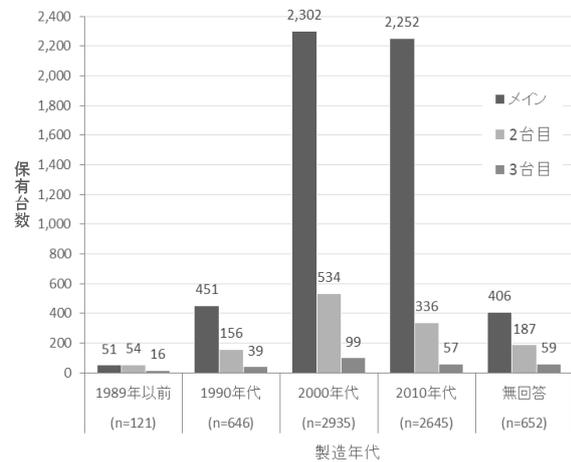


図 2-2 冷蔵庫の製造年代別保有台数

2.2 冷蔵庫の大きさ及び中身の詰め具合

冷蔵庫の大きさ²⁾を見ると、メインで使われる冷蔵庫の大きさは 85%が大型であったが、2 台目、3 台目として使われる冷蔵庫では小型、中型冷蔵庫の保有割合が増加した (図 2-3)。

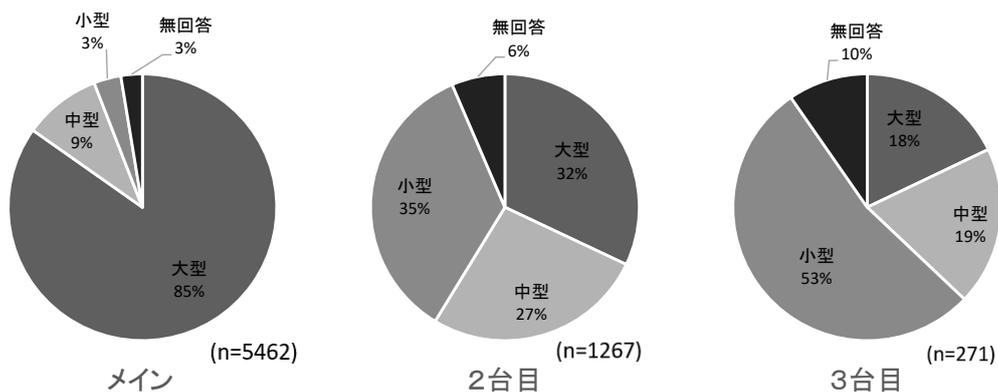


図 2-3 保有台数別冷蔵庫の大きさ

次に、中身の詰め具合を見ると、メインで使われる 1 台目の中身の詰め具合は「6～8 割」が 50%を占めたが、2 台目、3 台目では「6～8 割」の割合が減少し、「3～5 割」という回答が約 30%と増加した (図 2-4)。

²⁾ 冷蔵庫の大きさの基準：小型,150L 以下、中型,151～300L、大型,301L 以上

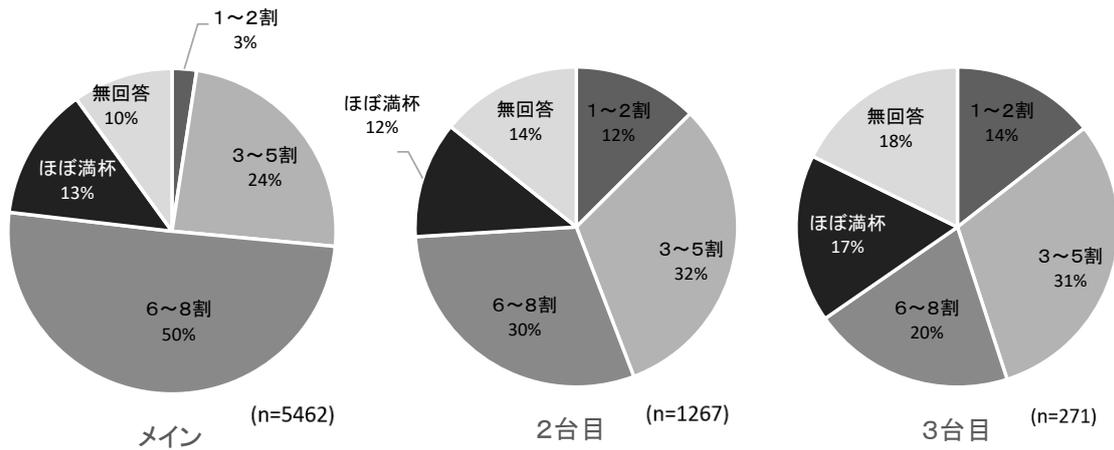


図 2-4 保有台数別冷蔵庫の中身の詰め具合

2.3 冷蔵庫の設定温度及び季節に合わせた設定温度の変更について

冷蔵庫の設定温度を保有台数別に見ると、メインで使用されている1台目の冷蔵庫では2台目、3台目に比べて「ecoモード等」に設定されている割合が18.5%と高かった(図2-5)。

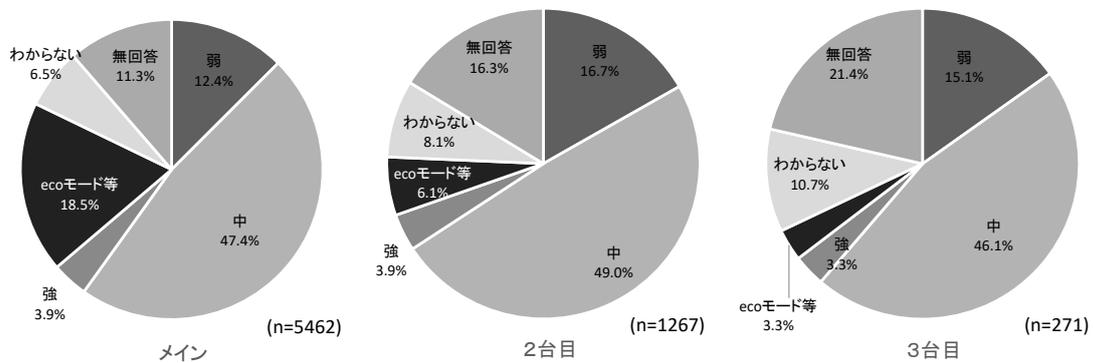


図 2-5 冷蔵庫の保有台数別設定温度

季節に合わせた設定温度の変更について見ると、1台目(メイン)、2台目、3台目ともに「変えていない」が約60%となった。一方で、「変えている」の割合について、保有台数が増えるごとに減少し、「無回答」割合が増えた(図2-6)

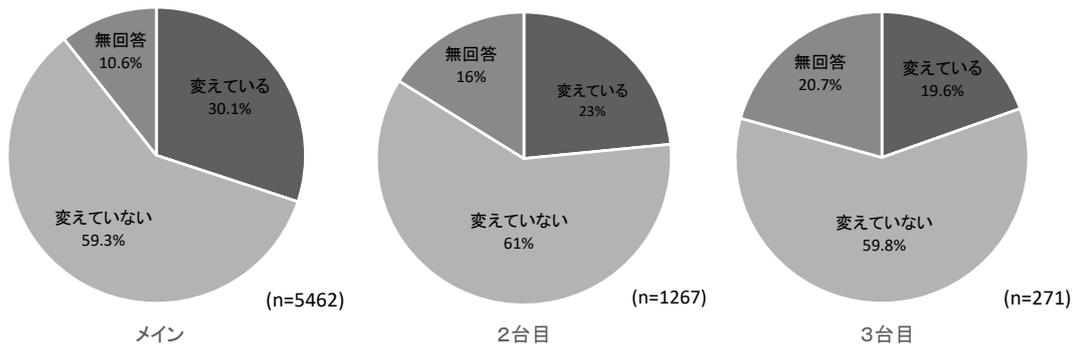


図 2-6 冷蔵庫の保有台数別季節に合わせた設定温度の変更

2.4 買替の予定と買替の基準（平成 28 年度調査分のみ）

買替の予定を見ると、保有台数を問わず 80%以上が「当面予定なし」と回答した(図 2-7)。買替の基準を見ると、保有台数を問わず 80%以上が「壊れたら」「不調・不便を感じたら」と回答した(図 2-8)。

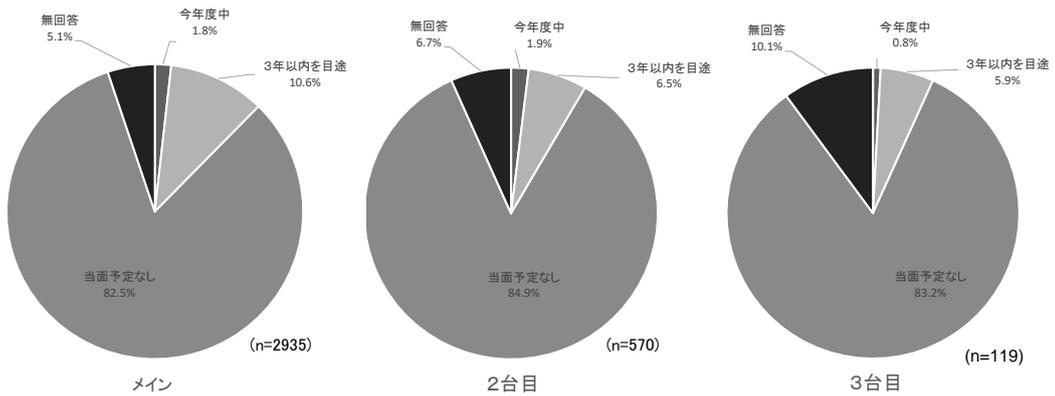


図 2-7 冷蔵庫の保有台数別買替の予定

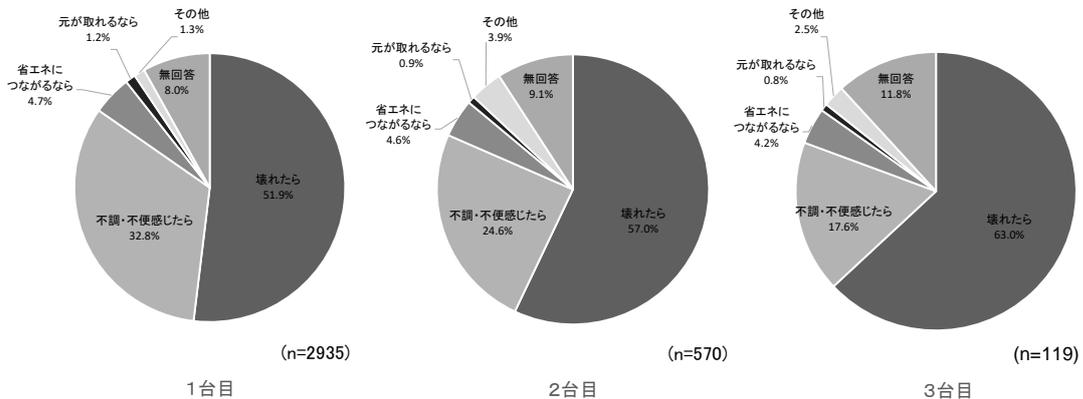


図 2-8 冷蔵庫の保有台数別買替の基準

2.5 冷蔵庫を購入する際に重視する点

購入の際に最も重視される点は、「冷蔵庫のサイズ」であり、2位は「価格」、3位は「省エネ性能」であった（図 2-9）。

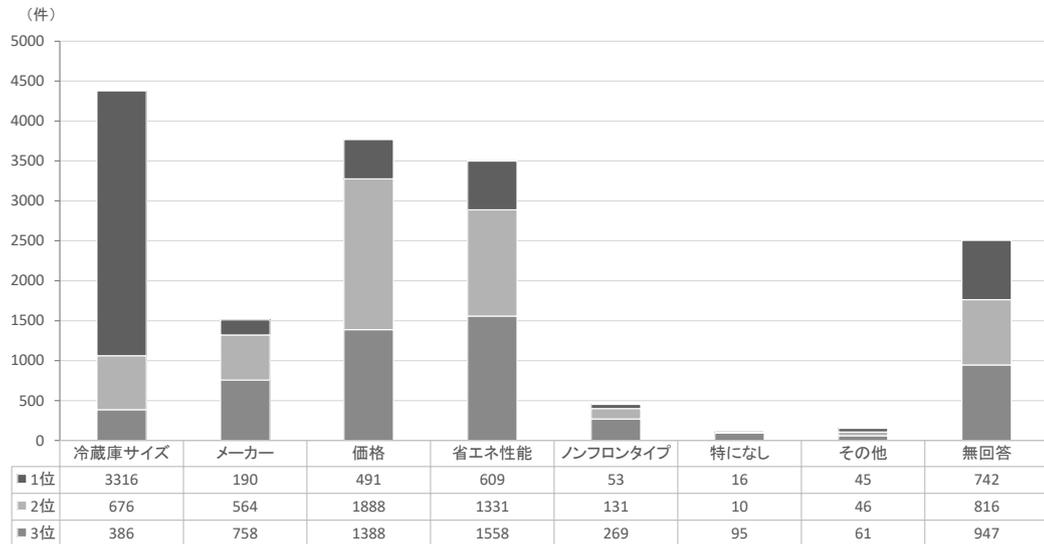


図 2-9 冷蔵庫を購入する際に重視する点

2.6 省エネ行動の項目別実施率と省エネ行動選択数との関係

省エネ行動の実施率と省エネ行動選択数の関係を見ると、例えば「開けている時間を短くする」は実施率 80%を超えるが、この項目を選択している世帯の省エネ行動選択数合計の平均値は約 3.7 項目となった一方で、「カーテン設置」の実施率は 10%以下だが、省エネ行動選択数合計の平均値は約 4.6 項目となり、実施率が低い省エネ行動を実施している世帯ほど、省エネ行動選択数が多い傾向が見られた（図 2-10）。

表 2-4 省エネ行動回答数と実施率（回答世帯数：5,436）

no.	省エネ行動	回答数(複数回答)	実施割合
1	開けている時間を短くする	3,893	79%
2	壁から離す	1,891	38%
3	熱いものは冷まして	3,467	71%
4	詰め込みすぎない	2,722	55%
5	無駄な開閉	2,908	59%
6	設定温度を適切に	1,794	37%
7	カーテン設置	230	5%
8	その他	148	3%

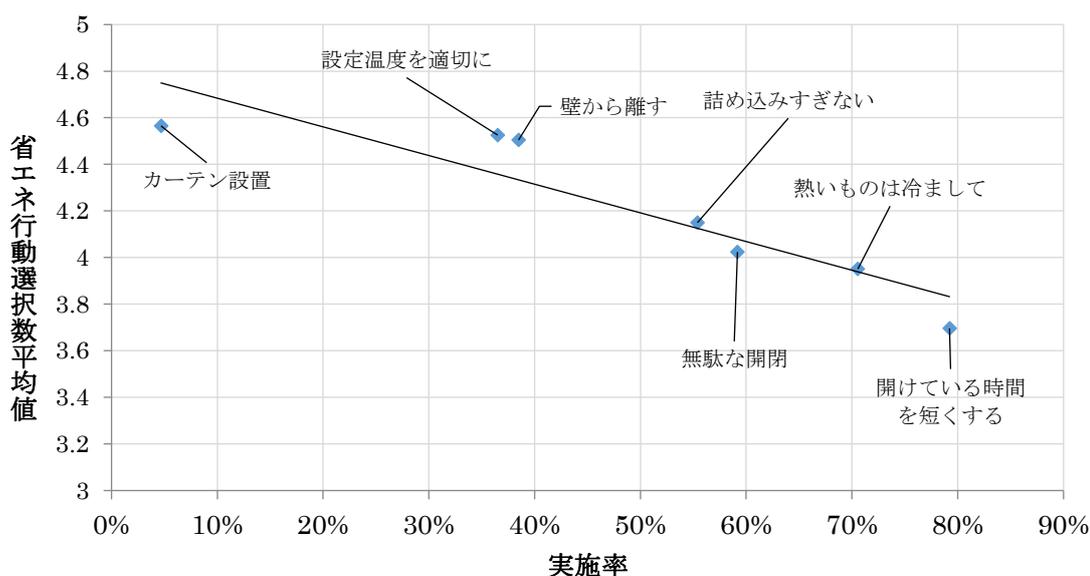


図 2-10 省エネ行動項目別実施率と省エネ行動選択数との関係

2.7 冷蔵庫を2台以上使用する理由と使用停止可能性（平成28年度調査分のみ）

2台以上使用する理由を表2-5に示した。これを見ると、「その他」が最も多く37%となった。次いで「二世帯住宅だから」が21%、「1台目の場所が遠いから」が17%となった。「その他」については自由回答を再分類した。その結果、飲み物や野菜など、特定の品物を保管する「〇〇専用」が12%、「余っているから」が4%など、複数に分類できた。

表 2-5 冷蔵庫を2台以上使用する理由（2台目、3台目合計）

理由	数量	構成比
二世帯住宅だから	145	21%
1台目が小さいから	104	15%
1台目の場所が遠いから	122	17%
その他	261	37%
無回答	71	10%
合計	703	100%

その他自由回答を再分類	数量	全体の構成比
〇〇専用	84	12%
余っているから	26	4%
足りない	18	1%
個人用	14	3%
買物の回数を減らす	6	2%
予備	4	1%
特定の時期のみ	4	1%
その他	19	3%
自由回答空欄	86	12%
その他合計	261	37%

2台以上使用する理由と2台目以降の使用停止可能性との関係を図 2-11 に示す。まず使用停止可能性について全体の構成比を見ると、「難しい」が全体の約 55%を占め、使用停止「可能」及び「可能性あり」については、全体の約 30%となった。

次に、2台目以降の使用停止可能性を2台以上使用する理由別に見ると、「二世帯住宅だから」及び「〇〇専用」では約 70%が使用停止は「難しい」と回答した。一方で、「1台目が小さいから」、「1台目の場所が遠いから」では約 40%が、「余っているから」では、約 60%が使用停止「可能」若しくは「可能性あり」であった。

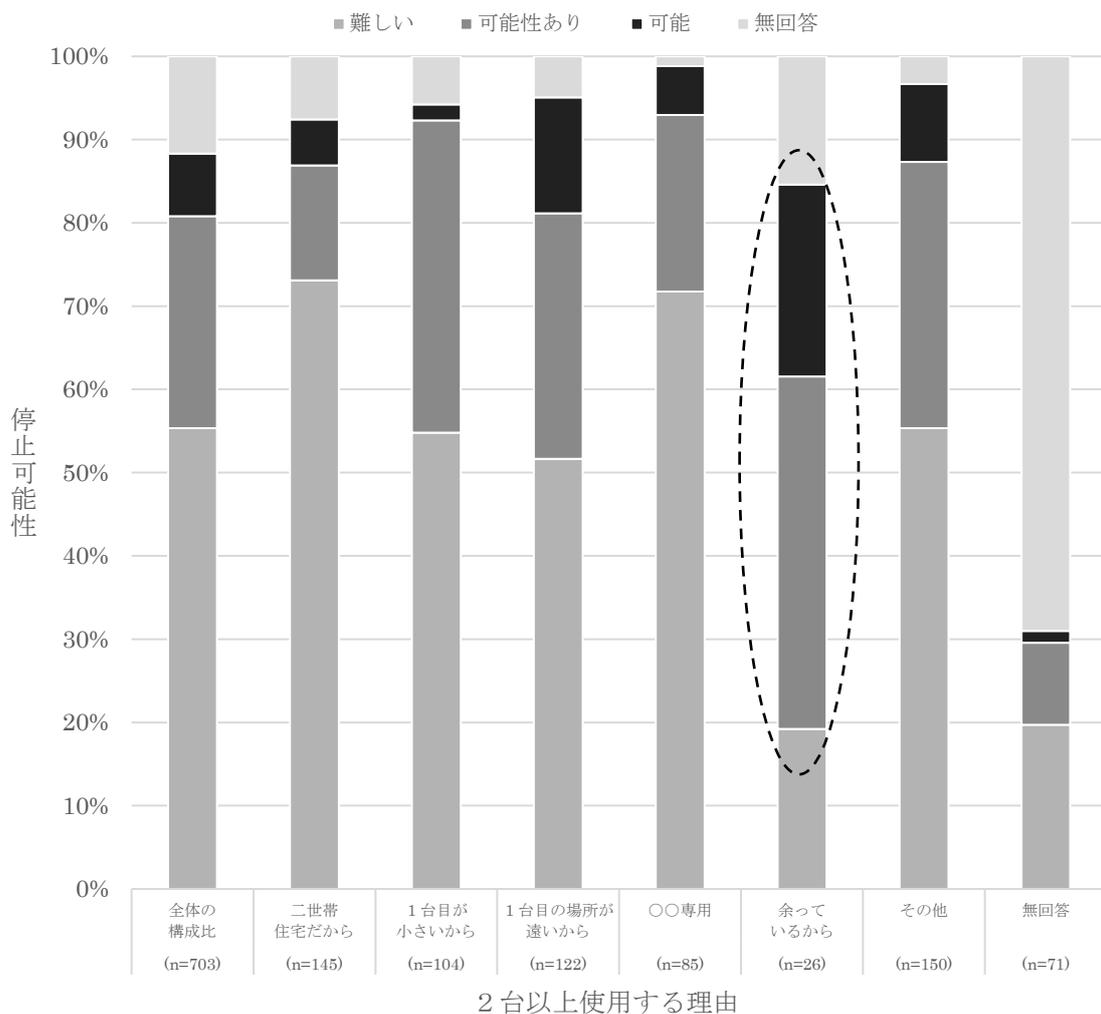


図 2-11 2台以上使用する理由別使用停止可能性（2台目、3台目合計）

2.8 冷蔵庫の製造年代と使用停止可能性との関係

冷蔵庫の製造年代と使用停止可能性についてみると、古い年代の冷蔵庫ほど使用停止可能性は高くなる傾向が見られた（図 2-12）。

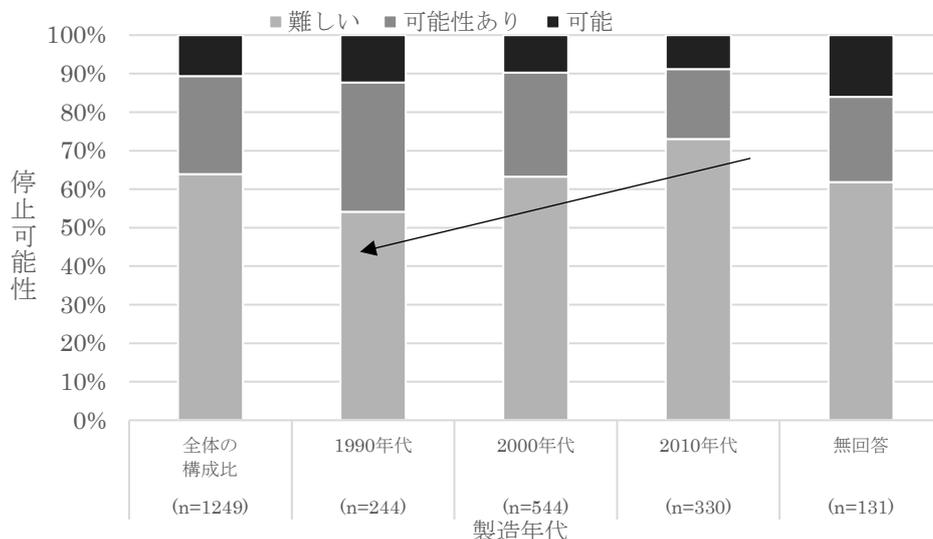


図 2-12 製造年代別 2 台目、3 台目の停止可能性（無回答を除く）

2.9 冷蔵庫を 2 台以上保有している世帯の傾向

世帯人数と冷蔵庫の保有台数の関係を見ると、1人世帯の約 90%は 1 台のみ保有だが、7人世帯では約 70%の世帯が 2 台以上保有しており、世帯人数が多いほど冷蔵庫の保有台数が多くなる傾向が見られた（図 2-13）。

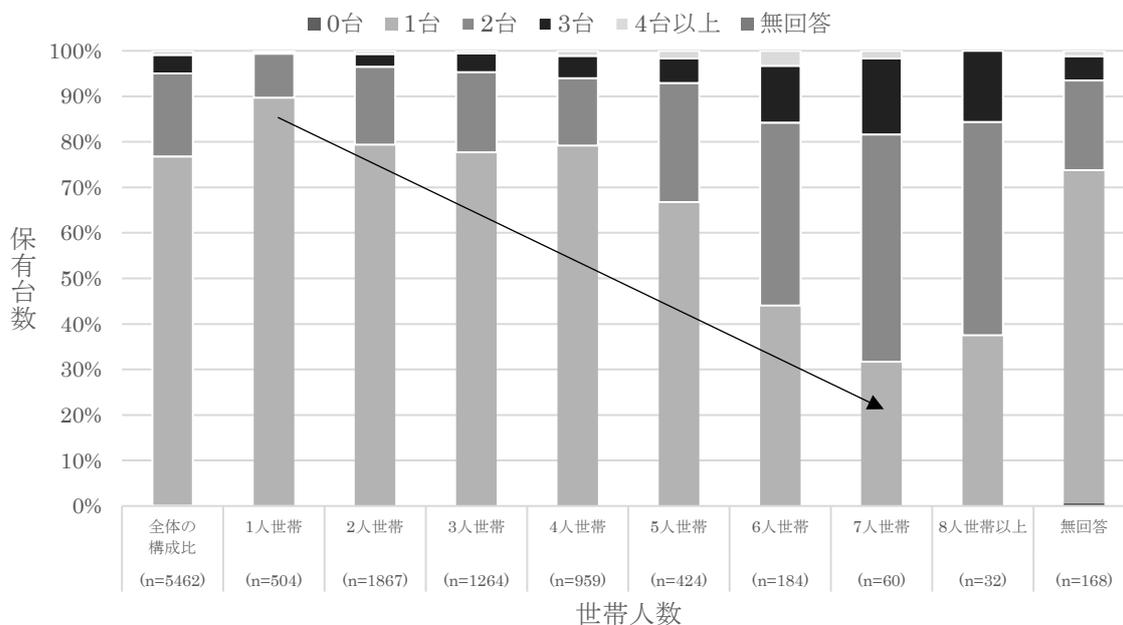


図 2-13 世帯人数別冷蔵庫の保有台数

次に、世帯タイプと冷蔵庫の保有台数の関係を見ると、65歳以上を含む世帯や三世帯世帯で冷蔵庫を2台以上保有している割合が高い傾向が見られた（図 2-14）。

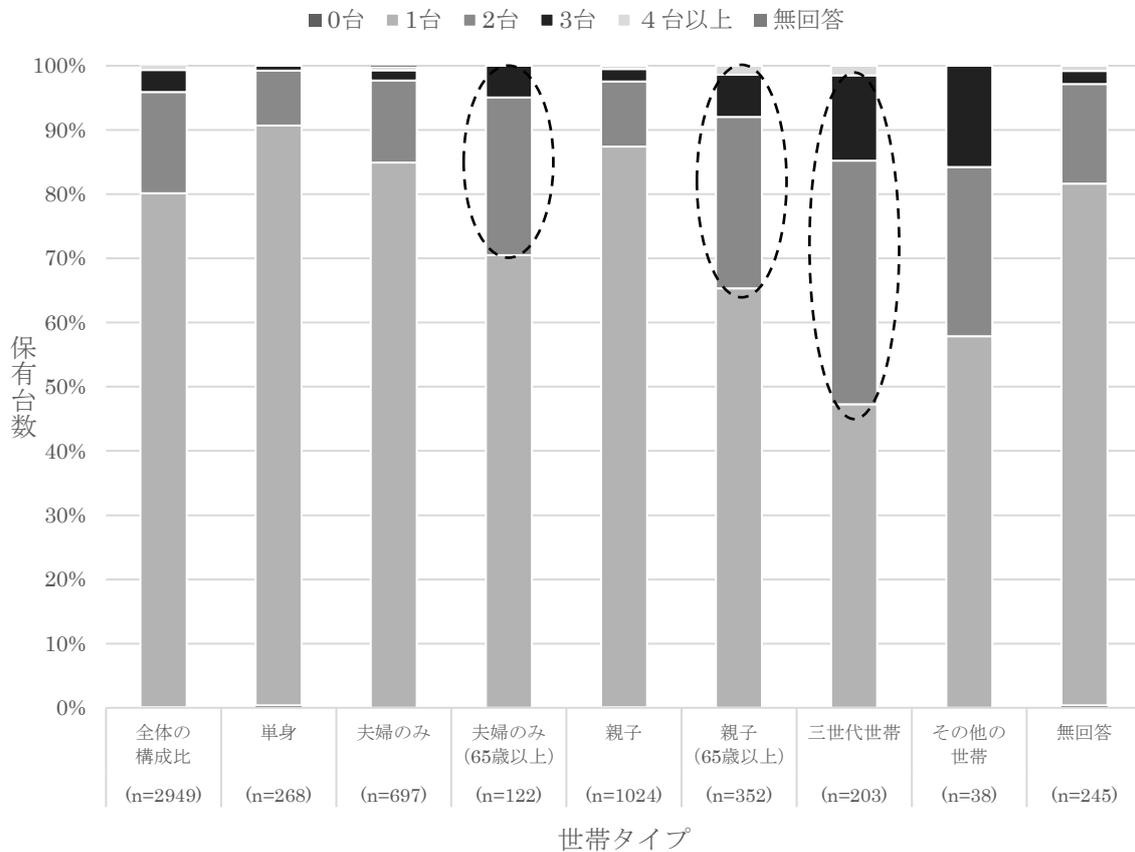


図 2-14 世帯タイプ別冷蔵庫の保有台数（平成 28 年度調査分のみ）

2.10 古い冷蔵庫の保有傾向

冷蔵庫の製造年代と保有台数との関係を見ると、2010年製以降の冷蔵庫は約80%がメインの冷蔵庫として使用されていた。一方で、1979年製以前の冷蔵庫を除き、2000年製以前の冷蔵庫は年代が古くなるにつれて2台目以降として使用される傾向が見られた。ただし、メインの冷蔵庫であっても製造から10年以上経過したものを使用している世帯が多く、1980年代の冷蔵庫であっても、約40%がメインの冷蔵庫として使用されていた（図 2-15）。

次に、世帯タイプ別に冷蔵庫の製造年代を見ると、世帯タイプを問わず、10%前後の世帯が1990年代以前の冷蔵庫を保有していた（図 2-16）。とくに「夫婦のみ（65歳以上）」の世帯では、1990年代以前の冷蔵庫の保有割合が若干高くなる傾向が見られた。

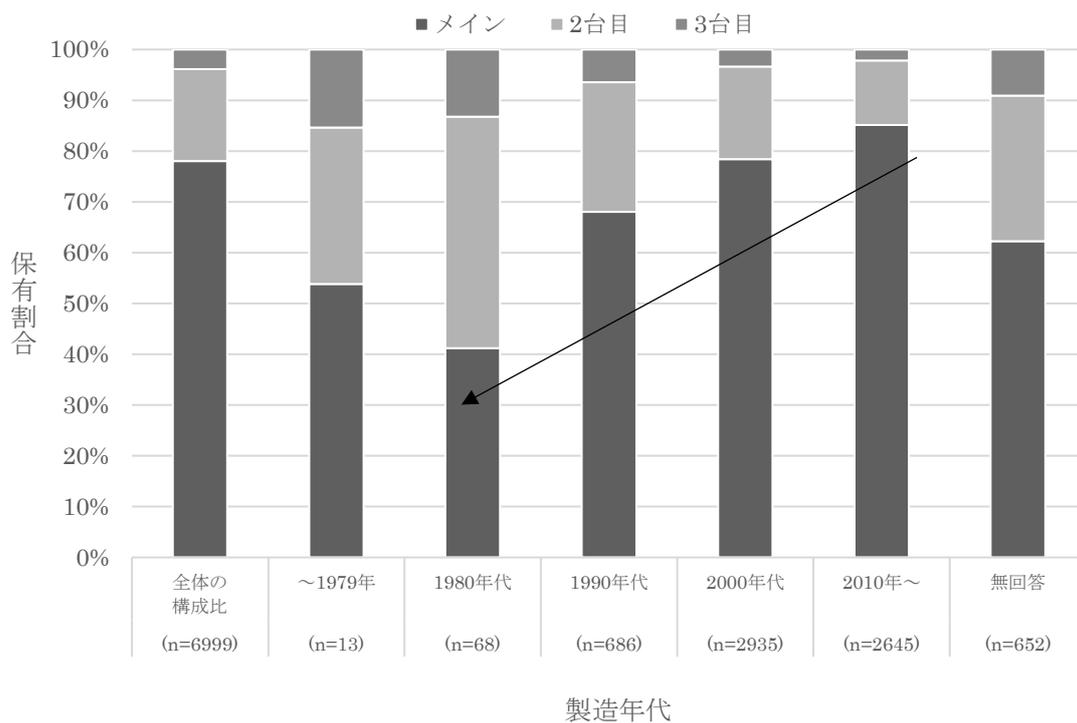


図 2-15 冷蔵庫の製造年代と保有台数の関係

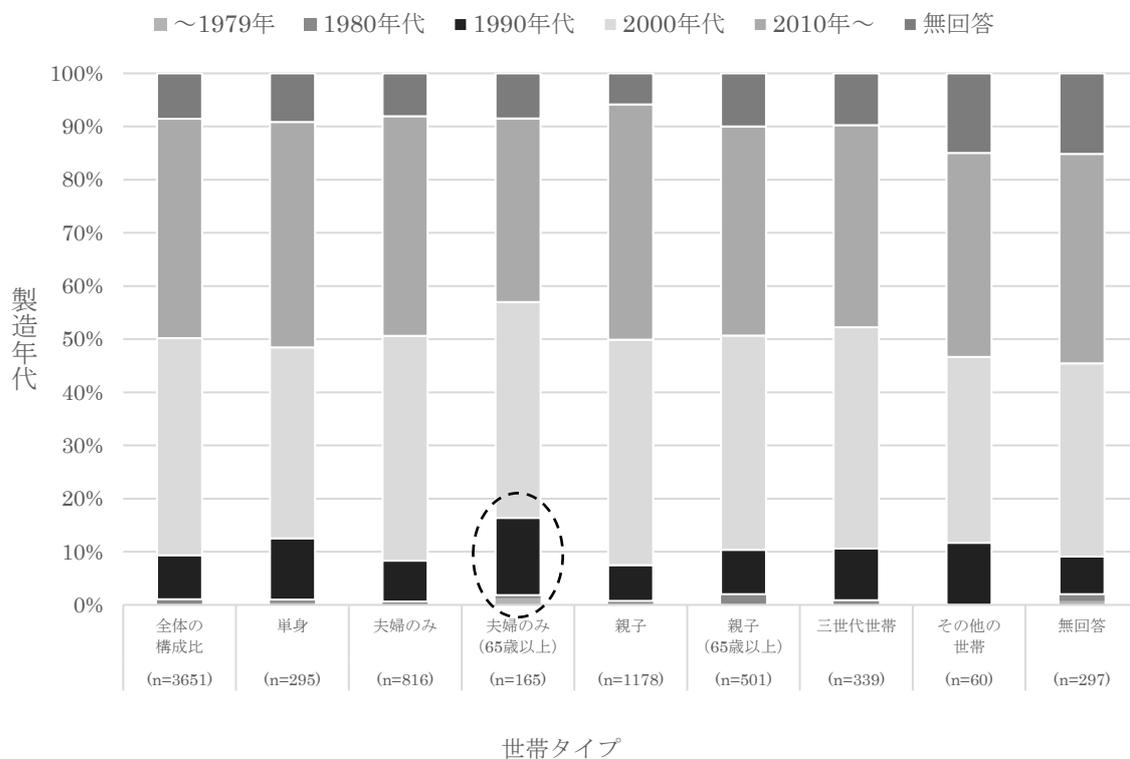


図 2-16 世帯タイプと冷蔵庫の製造年代との関係（平成 28 年度調査分のみ）

2.11 2台目以降の冷蔵庫の使用停止可能性と世帯属性との関係

2台目以降の使用停止可能性と世帯人数との関係を見ると、1人世帯、2人世帯では約50%が使用停止「可能」若しくは「可能性あり」と回答しているのに対し、3人世帯以上では約70%が使用停止は「難しい」と回答した（図 2-17）。

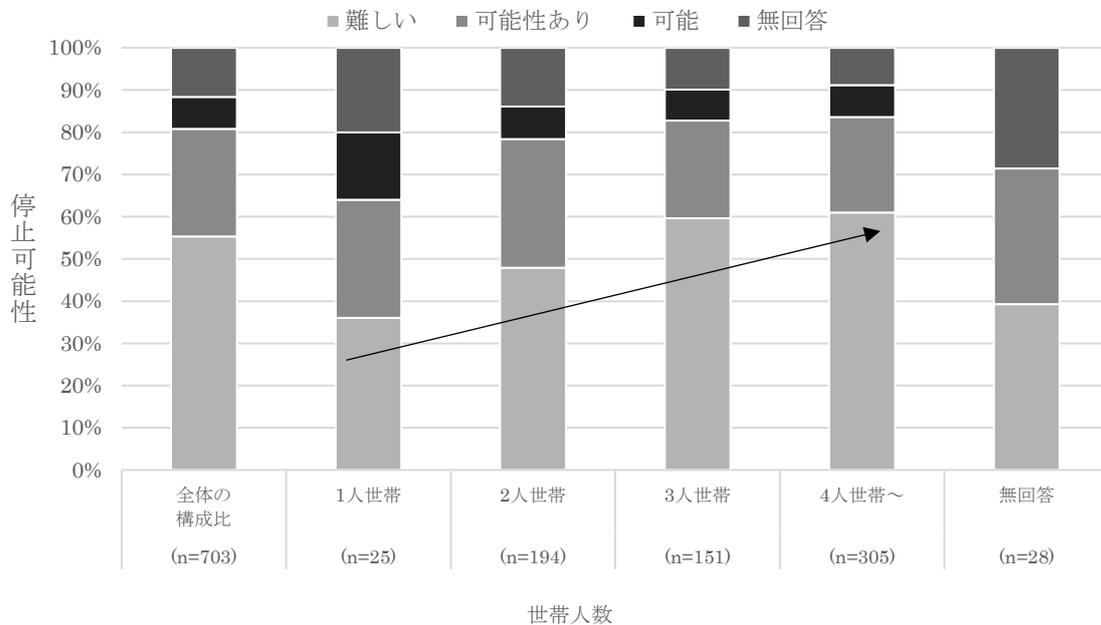


図 2-17 世帯人数と使用停止可能性の関係 (2台目, 3台目合計)

次に、2台目以降の停止可能性と世帯タイプとの関係を見ると、「単身」、「夫婦のみ」の世帯では、使用停止「可能」「可能性あり」が約40%ととなり、やや高い傾向が見られたが、「夫婦のみ(65歳以上)」、「親子(65歳以上)」、「三世帯世帯」、「その他の世帯」では30%以下となり、使用停止は「難しい」と回答した世帯が約60%を占めた。

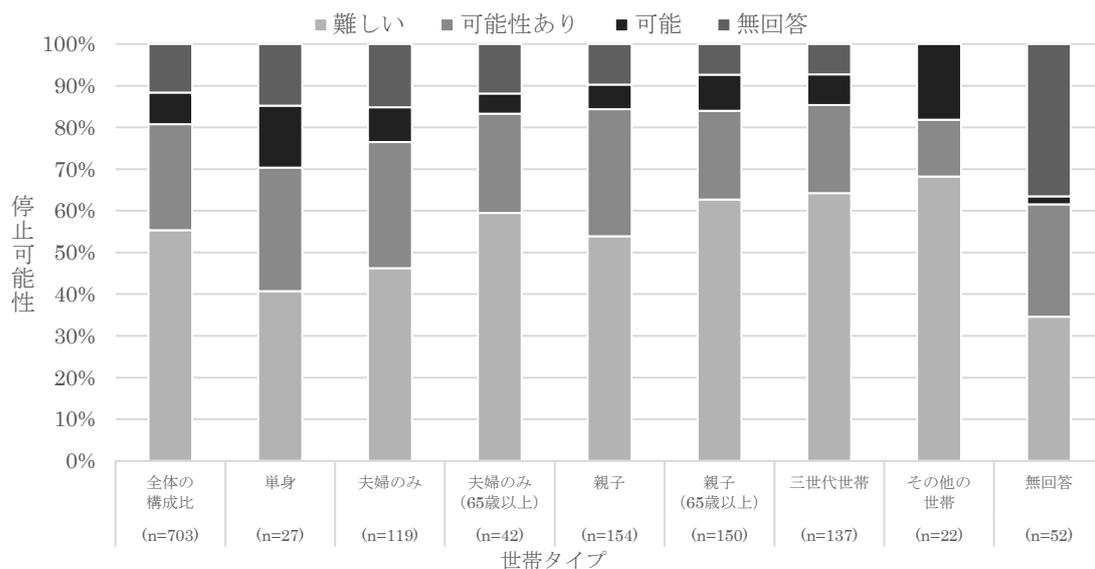


図 2-18 世帯タイプ別使用停止可能性 (2台目, 3台目合計)

2.12 まとめ

1) 冷蔵庫を複数台保有している理由と冷蔵庫の使用減について

冷蔵庫の保有台数については、調査対象の約 25%が冷蔵庫を2台以上保有していた(図 2-1)。その理由としては「二世帯住宅だから」などという回答が最も多かった。その他の理由としては、飲み物や野菜など「〇〇専用」として冷蔵庫を使用したい世帯が多かった(表 2-5)。次に、世帯人数と冷蔵庫の保有台数の関係を見ると、世帯人数が多いほど複数台保有している傾向が見られた(図 2-13)。また、世帯タイプと冷蔵庫の保有台数の関係を見ると、「三世帯世帯」「夫婦のみ(65歳以上)」の世帯、「親子(65歳以上)」世帯で複数台保有している傾向が見られた(図 2-14)。

冷蔵庫を2台以上使用する理由として「二世帯住宅だから」と回答した世帯や、「〇〇専用」として使用したい世帯では、明確な目的をもって複数台使用していることから、2台目以降の停止は難しい(図 2-11)。こういった世帯へのアプローチとしては、複数台使用することのデメリット、例えば電気代やCO₂排出量など定量的なデータを示すことや、1台のみの世帯が数多くいることから、他の世帯の冷蔵庫の使い方を図 2-11 図 2-13 などを活用しながら伝えることで、2台目以降停止に係る気づきにつなげることが有効だと考える。

2台以上使用する理由のうち、上記の理由以外に、「余っているから」という自由回答が複数見られ、明確な目的ではないため、停止可能性も高い(図 2-11)。今回の調査では「余っているから」という回答項目を設けていないため、拾い上げられなかった世帯が複数存在する可能性がある。今後は、余っている冷蔵庫に的を絞った調査を実施することで、その実態把握と使用停止に係る普及啓発を同時に行うことが効果的だと考える。

2) 古い冷蔵庫の使われ方と保有している世帯の傾向について

2000年代以前に製造された冷蔵庫の保有傾向としては、古い年代ほどメインとしてではなく、2台目以降として使用される傾向があることがわかった(図 2-15)。冷蔵庫の製造年代と2台目以降の使用停止可能性との関係を見ると、古い年代ほど使用停止可能性が高くなる傾向が見られるが、1990年以前の冷蔵庫であっても、使用停止は「難しい」という回答が約50%を占めた(図 2-12)。また、買替の基準については、「不調・不便を感じたら」及び「壊れたら」という回答が全体の約80%となっており、古い冷蔵庫であっても機器の買替及び2台目以降使用停止ポテンシャルはあまり高くなかった(図 2-8)。

このことについて、古い冷蔵庫を使い続けるデメリットについて知らない世帯が多いことが考えられ、機器買替や2台目以降使用停止等を促進するためのアプローチ方法としては、資源エネルギー庁が発行している「省エネ性能カタログ」や、「しんきゅうさん」等を活用したCO₂排出削減量や電気代の削減量を示すとともに、古い冷蔵庫の使用のされ方を示した図 2-15 等を活用することで、古い冷蔵庫の所有について気づきを与えることが有効だと考える。

3. 冷暖房調査結果

設計したアンケート票を全国の地域センターに配布し、調査を依頼した結果、3,389 件の調査票を得た（表 3-1）。

表 3-1 地域区分別調査票回収件数（冷暖房）

地域区分 ³⁾	該当件数	含まれる都道府県
I	18 件	北海道
II	113 件	青森県, 岩手県, 秋田県
III	401 件	宮城県, 山形県, 福島県, 栃木県, 新潟県, 長野県
IV	2780 件	茨城県, 群馬県, 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 富山県, 石川県, 福井県, 山梨県, 岐阜県, 静岡県, 愛知県, 三重県, 滋賀県, 京都府, 大阪府, 兵庫県, 奈良県, 和歌山県, 鳥取県, 島根県, 岡山県, 広島県, 山口県, 徳島県, 香川県, 愛媛県, 高知県, 福岡県, 佐賀県, 長崎県, 熊本県, 大分県
V	75 件	宮崎県, 鹿児島県
VI	2 件	沖縄県
合計	3,389 件	47 都道府県

次に、調査対象世帯の世帯属性を示す。冷暖房調査では、「世帯人数」、「世帯タイプ」の他に、住宅に関する情報として、「家のつくり」、「家の所有」、「建築年代」、「断熱設計の配慮」について聞いている。

表 3-2 世帯人数内訳

種別	世帯数	構成比
1人世帯	320	9.4%
2人世帯	1,178	34.8%
3人世帯	779	23.0%
4人世帯	665	19.6%
5人世帯	264	7.8%
6人世帯	106	3.1%
7人世帯	35	1.0%
8人以上の世帯	26	0.8%
無回答	16	0.5%
合計	3,389	100%

表 3-3 世帯タイプ内訳

種別	世帯数	構成比
単身	325	9.6%
夫婦のみ	896	26.4%
夫婦のみ(65歳以上)	181	5.3%
親子	1,214	35.8%
親子(65歳以上)	432	12.7%
三世帯世帯	260	7.7%
その他の世帯	51	1.5%
無回答	30	0.9%
合計	3,389	100%

³⁾ 地域区分の標記については表 2-1 と同じ。

表 3-4 家のつくり

種別	世帯数	構成比
一戸建て	2,617	77.2%
集合	633	18.7%
その他	31	0.9%
無回答	108	3.2%
合計	3,389	100%

表 3-5 家の所有

種別	世帯数	構成比
持ち家	2,543	75.0%
持ち家でない	534	15.8%
無回答	312	9.2%
合計	3,389	100%

表 3-6 建築年代

種別	世帯数	構成比
～70年	324	9.6%
71～80年	429	12.7%
81～85年	315	9.3%
86～90年	350	10.3%
91～95年	330	9.7%
96～00年	407	12.0%
01～05年	383	11.3%
06～10年	321	9.5%
11年～	330	9.7%
わからない	147	4.3%
無回答	53	1.6%
合計	3,389	100%

表 3-7 断熱設計の配慮

種別	世帯数	構成比
省エネ法の基準以上配慮している	314	9.3%
省エネ法の基準まで配慮している	319	9.4%
省エネ法はわからないが配慮している	859	25.3%
配慮していない	599	17.7%
わからない	1,100	32.5%
無回答	198	5.8%
合計	3,389	100%

住宅に関する情報について、とくに「断熱設計の配慮」では、「省エネ法の基準以上配慮している」、「省エネ法の基準まで配慮している」、「省エネ法はわからないが配慮している」など、調査対象世帯の約40%が何らかの断熱の配慮を行っているとは回答した。

3.1 冷房（エアコン）の製造年代及び使用する部屋について

冷房としてエアコンを使用している世帯は、3,389 件の調査対象のうち、2,854 件であった（表 3-8）。エアコンの製造年代を見ると、2011 年以降に製造された機器を使用している世帯が最も多く、全体の 39%を占めた。一方で、製造から 10 年以上が経過している 2005 年以前に製造された機器を使用している世帯は 814 世帯となり、全体の約 28%を占めていた。

次に、最も冷房（エアコン）を使用する部屋を表 3-9 に示す。最も冷房（エアコン）が使用される部屋は「リビング⁴⁾」であった。次いで、「寝室」、「1 ルーム」、「子ども部屋」の順となった。

表 3-8 冷房（エアコン）の製造年代

種別	世帯数	構成比
～90 年以前	52	2%
91～95 年	95	3%
96～00 年	242	8%
01～05 年	425	15%
06～10 年	726	25%
11 年～	1,105	39%
わからない	152	5%
無回答	57	2%
合計	2,854	100%

表 3-9 最も冷房（エアコン）を使用する部屋

種別	世帯数	構成比
リビング	2,192	76.8%
寝室	252	8.8%
1 ルーム	78	2.7%
子ども部屋	33	1.2%
キッチン	27	0.9%
全館	8	0.3%
その他	93	3.3%
無回答	171	6.0%
合計	2,854	100%

⁴⁾ ダイニング、リビングダイニングを含む

3.2 冷房（エアコン）使用率の推移

冷房（エアコン）の使用期間には、地域区分に応じた明瞭な違いが見られた（図 3-1）。使用率が 50%の時期に着目して見ると、使用率の上昇期では、九州や沖縄を含むV+VI地域は6月下旬から7月上旬であるのに対し、北海道や東北を含むI+II地域では、7月中旬頃となった。使用率の下降期では、V+VI地域は10月上旬頃に50%を下回るのに対し、I+II地域では9月上旬頃となっており、最大で約1か月の差が見られた。

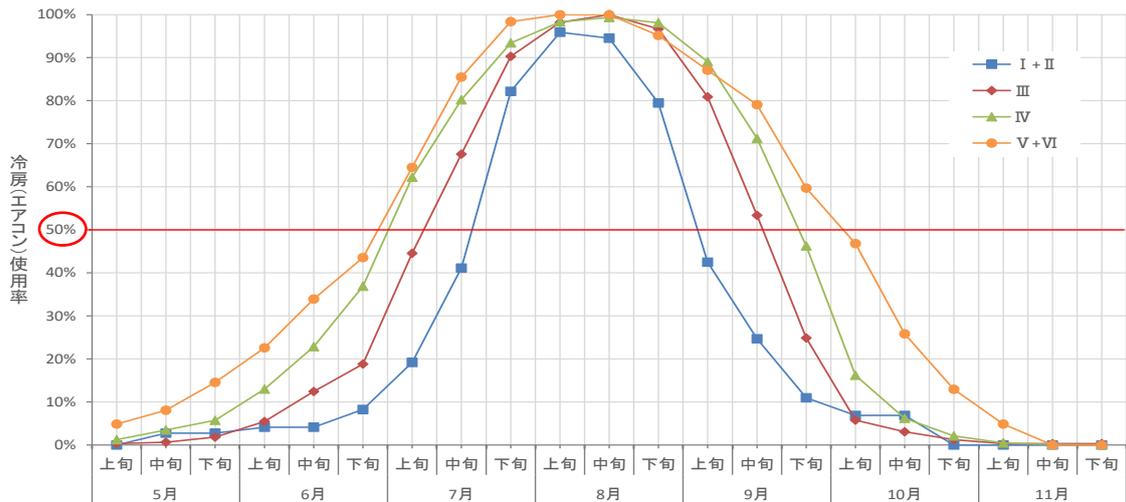


図 3-1 冷房（エアコン）使用率の推移

3.3 地域区分別冷房（エアコン）の使用時間

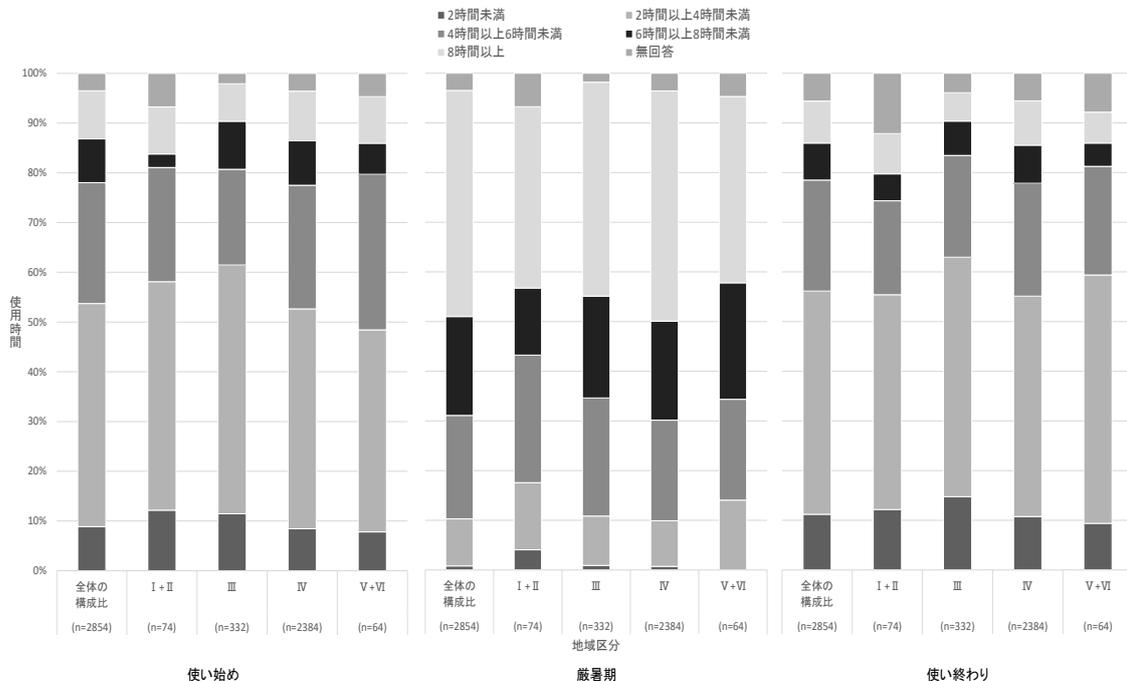


図 3-2 地域区分別冷房（エアコン）の使用時間

地域区分別に見た冷房（エアコン）の使用時間を図 3-2 に示す。まず全体の構成比を見ると、使い始めと使い終わりの時期では、「2 時間以上 4 時間未満」が最も多かった。厳暑期を見ると、「8 時間以上」が最も多かった。これらの使用時間を基準に地域との関係を見ると、明瞭ではないが、寒冷な地域ほど使用時間が短く、温暖な地域ほど長い傾向が見られた。

3.4 地域区分別冷房（エアコン）の設定温度

地域区分別冷房（エアコン）の設定温度割合を図 3-3 に示す。使い始め、使い終わりの時期を見ると、「28℃」設定が最も多かった。厳暑期を見ると、「28℃」設定の割合は減少し、「27℃」以下の割合が高くなった。地域区分別に見ると、寒冷な地域ほど「27℃」以下の割合が高く、温暖な地域ほど低い傾向が見られた。

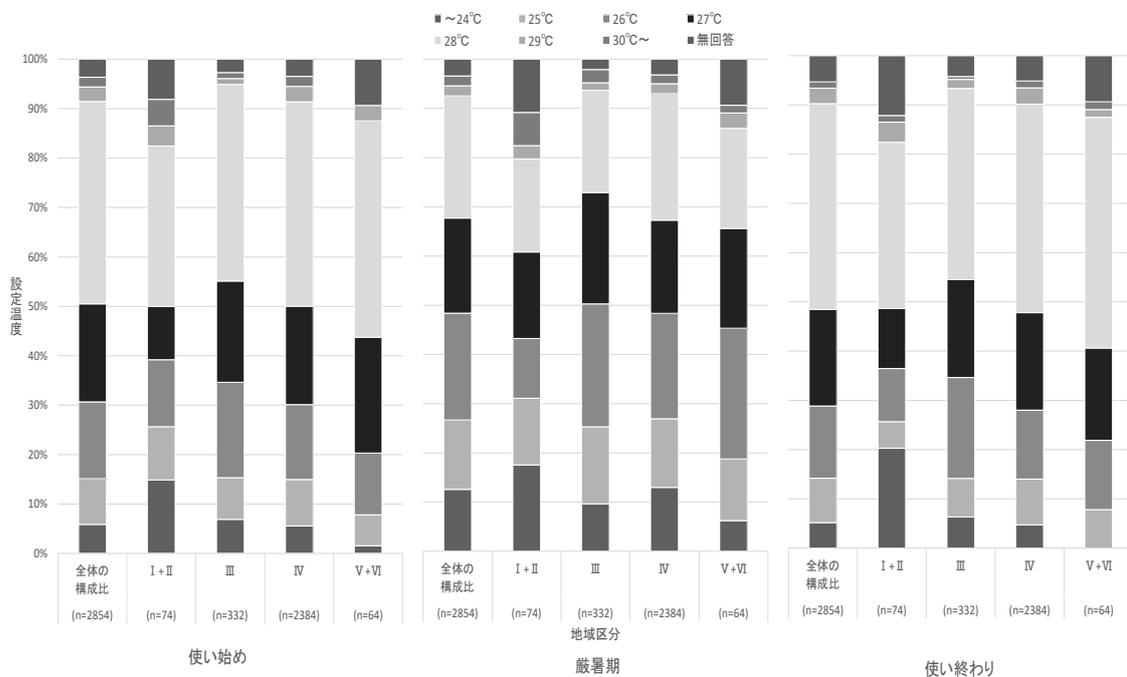


図 3-3 地域区分別冷房（エアコン）の設定温度

3.5 使用する暖房機器の種類と最も使用する暖房機器について

使用する暖房機器として最も多かったのは「エアコン」であり、暖房を使用する世帯の56%が使用していた（表 3-10）。次いで「灯油ストーブ」（47%）、「電気カーペット・こたつ」（40%）の使用率が高かった。次に、使用する暖房機器の中で最も使用頻度の高い機器については、「灯油ストーブ類」が34.2%となり、最も使用率が高かった。次いで「エアコン」（31.7%）、「電気カーペット・こたつ」（15.5%）の使用率が高かった。

表 3-10 暖房機器の種類別使用率

No.	暖房機器	使用する暖房機器（複数回答）		最も使用する暖房機器	
		数量	使用率	数量	使用率
1	エアコン	1,827	56%	864	31.7%
2	電気ストーブ類	620	19%	138	5.1%
3	電気カーペット・こたつ	1,297	40%	421	15.5%
4	ガスストーブ類	272	8%	146	5.4%
5	灯油ストーブ類	1,524	47%	932	34.2%
6	電気蓄熱暖房機	73	2%	41	1.5%
7	電気床暖房	105	3%	37	1.4%
8	ガス温水床暖房	97	3%	46	1.7%
9	灯油温水床暖房	36	1%	19	0.7%
10	セントラル暖房システム	25	1%	13	0.5%
11	薪・木質ペレットストーブ	54	2%	32	1.2%
12	使用していない	29	1%	14	0.5%
13	その他	48	1%	20	0.7%
14	無回答	141	-	666	-
合計		6,148	-	3,389	-

3.6 地域区分と使用する暖房機器の関係

使用する暖房機器を地域区分別に見ると図 3-4 のようになる。地域別に見ると、温暖な地域ほど「エアコン」及び「電気カーペット・こたつ」の使用率が高く、寒冷な地域ほど「灯油ストーブ類」の使用率が高い傾向が見られた。I 地域では「セントラル暖房システム」や「ガスストーブ類」の使用率が高かった。

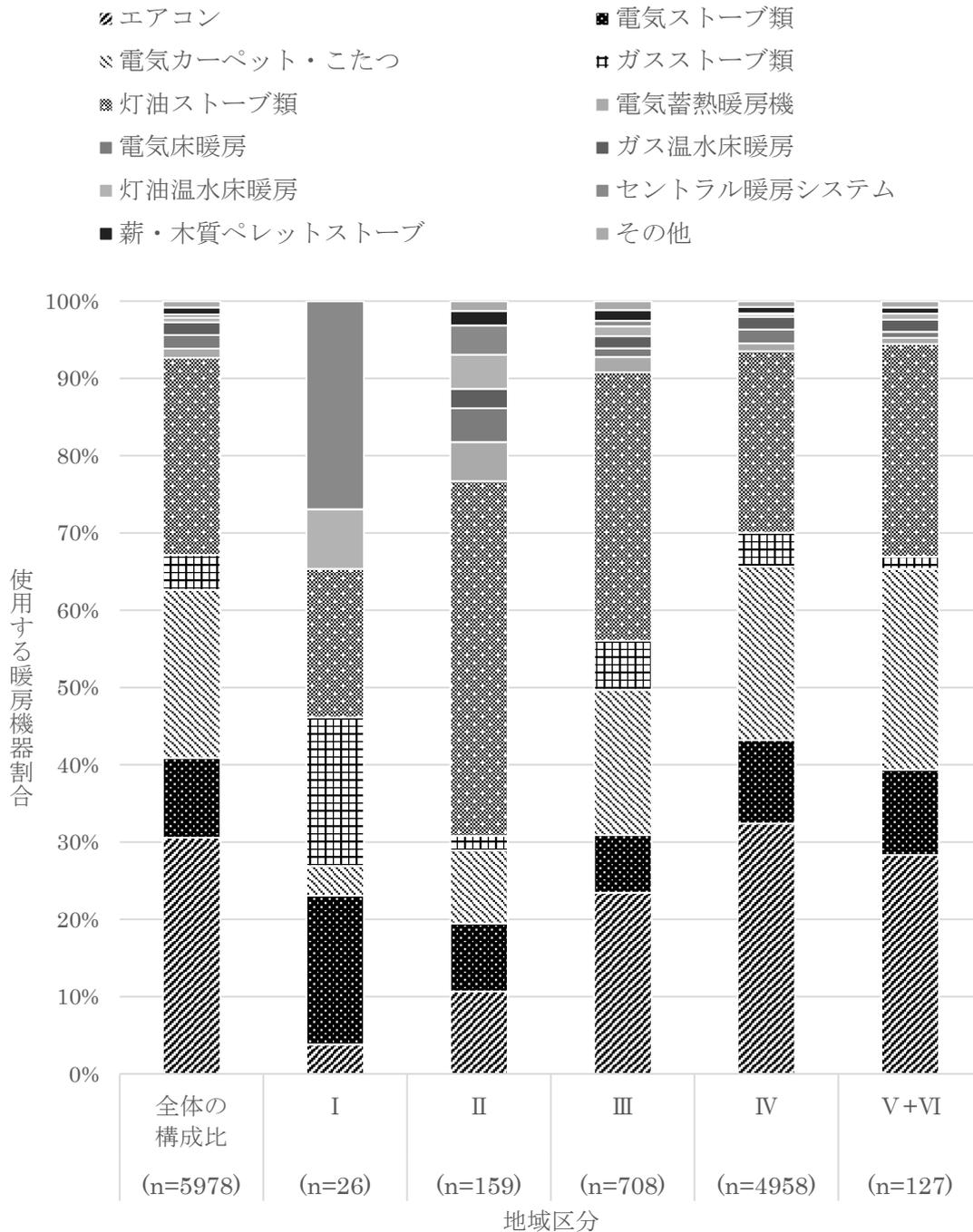


図 3-4 地域区分別暖房機器の使用率

3.7 最も使用する暖房の製造年代及び使用する部屋について

暖房を使用している世帯は、3,389 件の調査対象のうち、3,360 件であった（表 3-11）。暖房の製造年代を見ると、2011 年以降に製造された機器を使用している世帯が最も多く、全体の 35.9% を占めた。一方で、製造から 10 年以上が経過している 2005 年以前に製造された機器を使用している世帯は 810 世帯となり、全体の約 24.1% を占めていた。

次に、最も暖房を使用する部屋を表 3-12 に示す。最も暖房が使用される部屋は「リビング⁵⁾」であった。次いで、「寝室」、「1 ルーム」、「キッチン」の順となった。

表 3-11 暖房の製造年代

種別	世帯数	構成比
～90 年以前	76	2.3%
91～95 年	82	2.4%
96～00 年	246	7.3%
01～05 年	406	12.1%
06～10 年	825	24.6%
11 年～	1207	35.9%
わからない	253	7.5%
無回答	265	7.9%
合計	3,360	100%

表 3-12 最も暖房を使用する部屋

種別	世帯数	構成比
リビング	2,813	83.7%
寝室	104	3.1%
1 ルーム	47	1.4%
キッチン	39	1.2%
全館	17	0.5%
子ども部屋	7	0.2%
その他	74	2.2%
無回答	259	7.7%
合計	3,360	100%

⁵⁾ ダイニング、リビングダイニングを含む

3.8 暖房使用率の推移

暖房の使用期間には、地域区分に応じた明瞭な違いが見られた（図 3-5）。使用率 50%に着目してみると、使用率の上昇期について、I+II 地域では 10 月下旬に 50%を上回るのに対し、V+VI 地域では 11 月下旬であった。下降期を見ると、V+VI 地域は 3 月中下旬に 50%を下回るのに対し、I+II 地域では 4 月中下旬となっており、最大で約 1 か月の差が見られた。

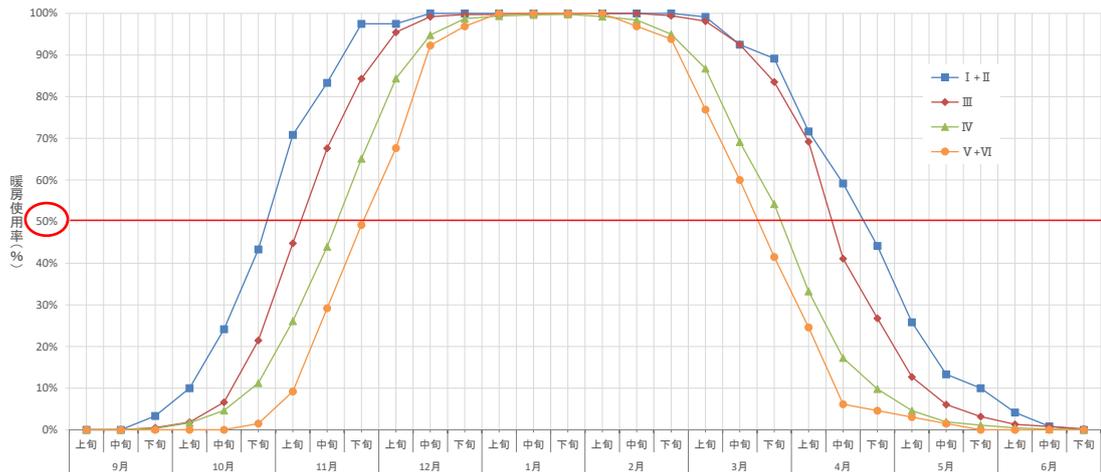


図 3-5 暖房使用率の推移

3.9 地域区分別暖房の使用時間

地域区分別に見た暖房の使用時間を図 3-6 に示す。まず全体の構成比を見ると、使い始めと使い終わりの時期では、「2 時間以上 4 時間未満」が最も多かった。厳寒期を見ると、「8 時間以上」が最も多かった。地域別に見ると、とくに厳寒期において、寒冷な地域ほど使用時間が長く、温暖な地域ほど短い傾向が見られた。

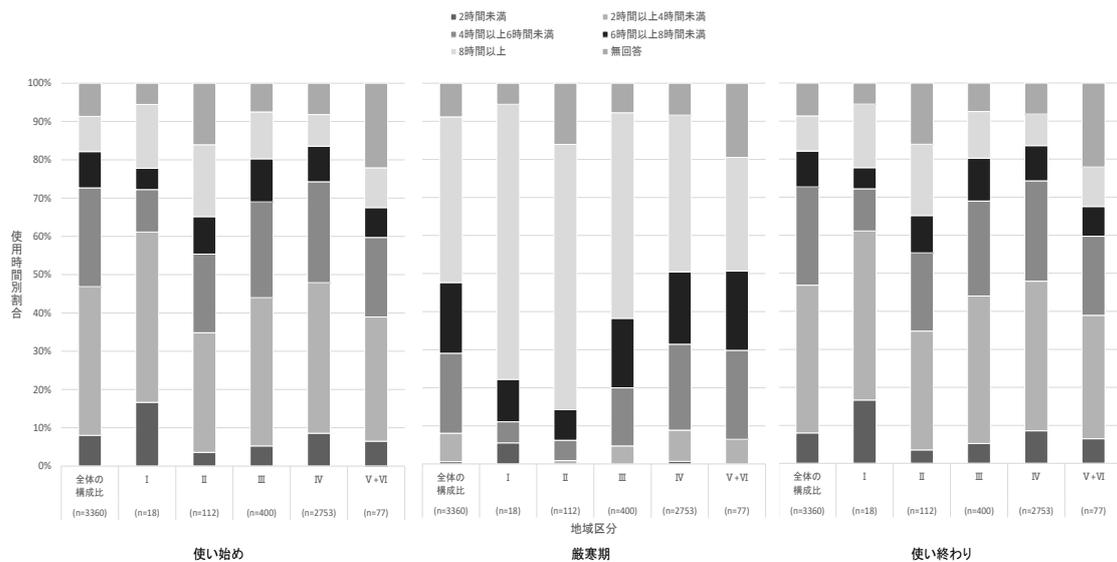


図 3-6 地域区分別暖房の使用時間

3.10 地域区分別暖房の設定温度

地域区分別暖房の設定温度割合を図 3-7 に示す。使い始め、使い終わりの時期を見ると、「20℃」設定が最も多かった。厳寒期を見ると、「20℃」設定の割合は減少し、「21℃」以上の割合が高くなった。

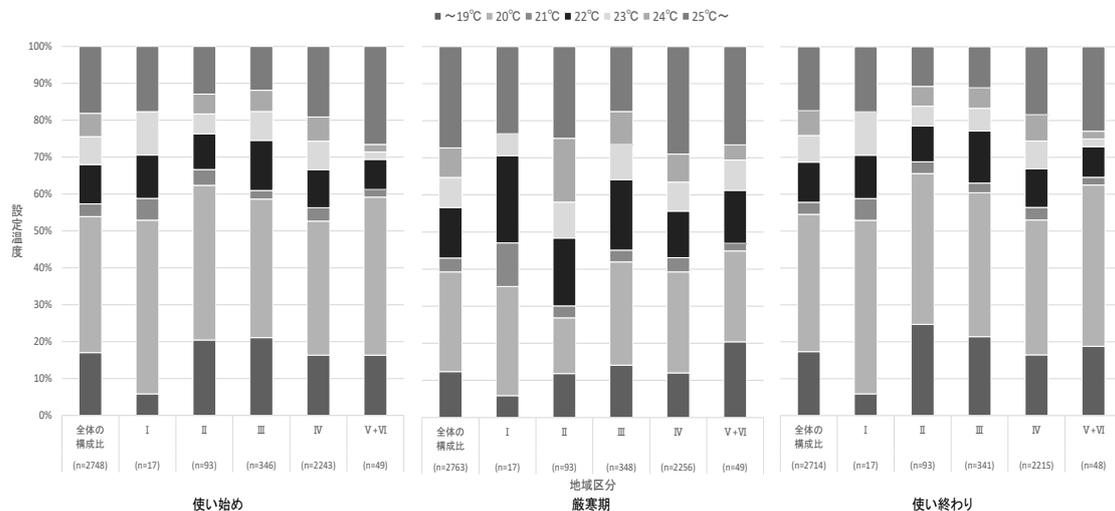


図 3-7 地域区分別暖房の設定温度

3.11 省エネ行動の項目別実施率と省エネ行動選択数との関係

省エネ行動の項目別実施率と省エネ行動選択数との関係を図 3-8、図 3-9 に示す。これらを見ると、実施率の低い省エネ行動を実施している世帯の省エネ行動選択数の平均値は高く、実施率の高い省エネ行動を実施している世帯ほど省エネ行動選択数の平均値は低い。このことからグラフ左上ほど取り組みにくい省エネ行動であり、右下ほど取り組みやすい省エネ行動だと考える。

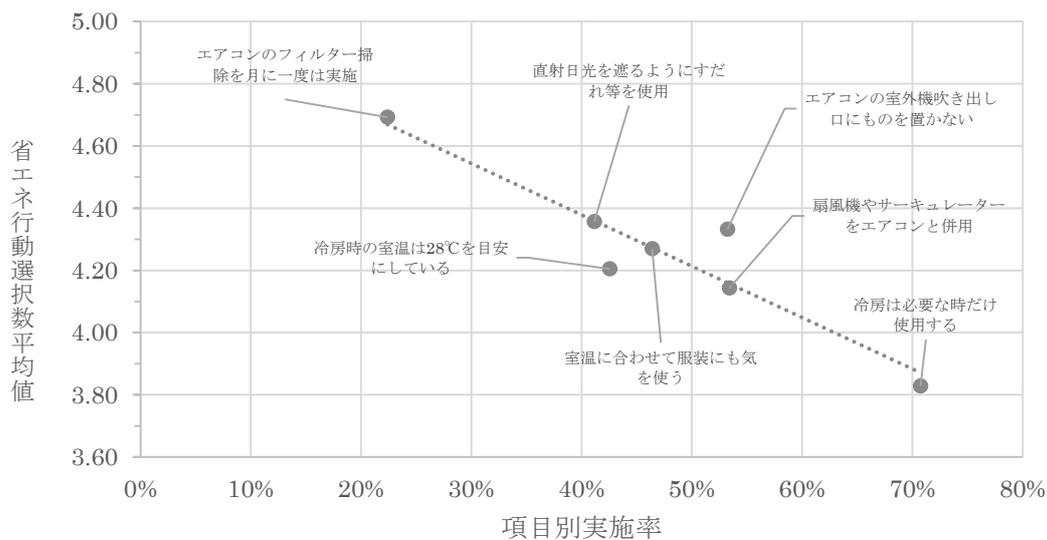


図 3-8 夏場の省エネ行動項目別実施率と選択数平均値との関係

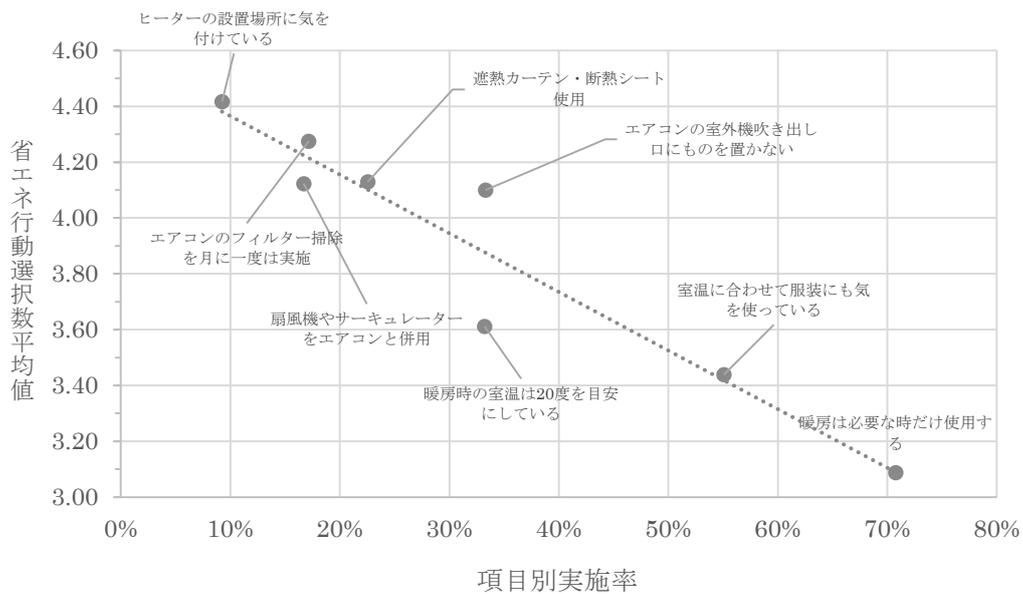


図 3-9 冬場の省エネ行動項目別実施率と選択数平均値との関係

3.12 冷暖房機器買替の予定及び買替の基準

冷暖房機器の買い替えの予定について見ると、全体の 68%が「当面買い換える予定なし」と回答した「今年度中」や「3年以内を目途に」買い替える予定の世帯は、全体の 11%だった（図 3-10）。

冷暖房機器の買替の基準については、「壊れたら」、「不調を感じたら」が 76%を占めていた。「省エネになるなら」、「電気代が安くなって元が取れるなら」と回答した世帯は、全体の 12%だった（図 3-11）。

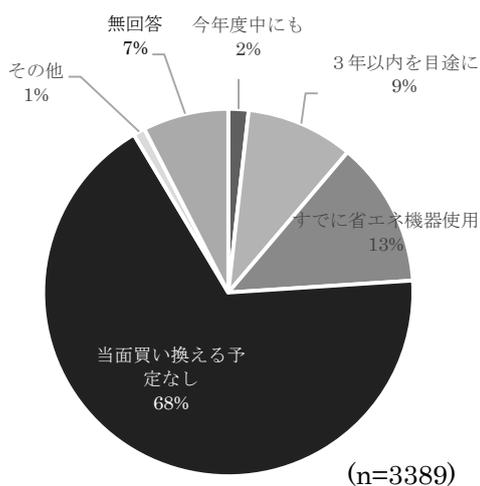


図 3-10 買替の予定

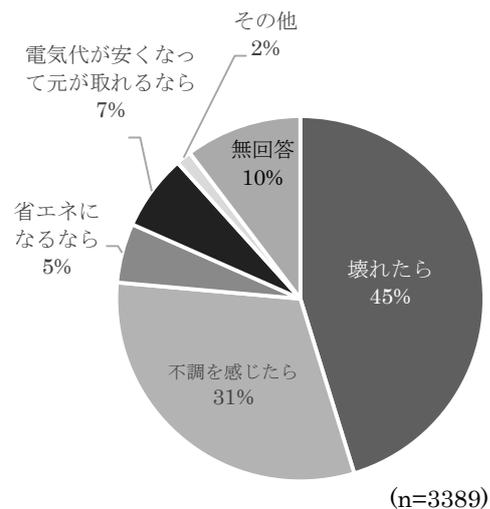


図 3-11 買替の基準

3.13 世帯タイプと冷暖房機器の製造年代との関係

冷房（エアコン）の製造年代と世帯タイプとの関係を見ると、「親子」世帯及び「その他の世帯」を除き、約30%が2005年以前の機器を保有していた（図3-12）。その中でも65歳以上の住人を含む世帯と「三世帯世帯」で若干保有割合が高い傾向が見られた。世帯タイプと暖房製造年代の関係を見ると、2005年以前の機器を使用している世帯タイプに特徴は見られなかったが、「夫婦のみ（65歳以上）」の世帯において、2006～2010年製の機器の保有割合が全体の約30%と高い傾向が見られた（図3-13）。

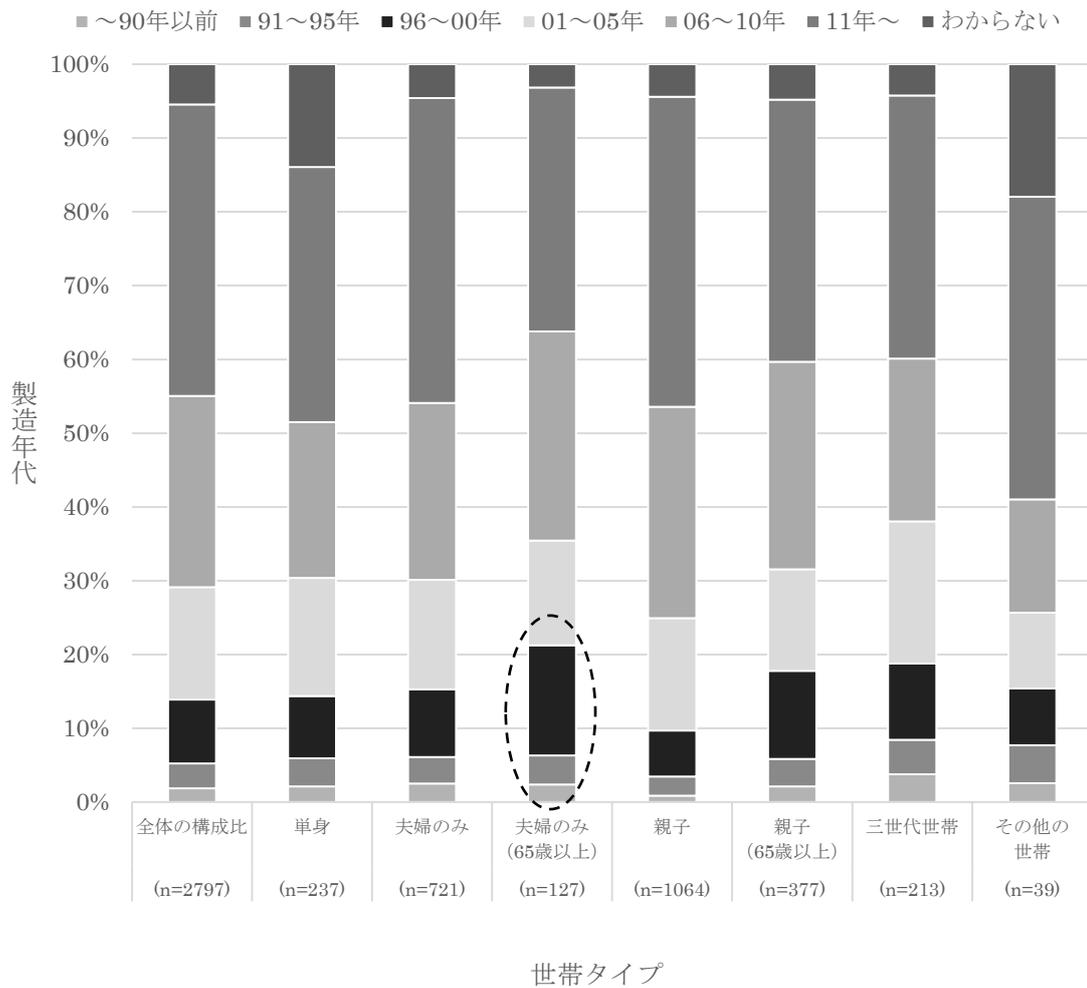


図 3-12 世帯タイプと冷房（エアコン）製造年代との関係（無回答除く）

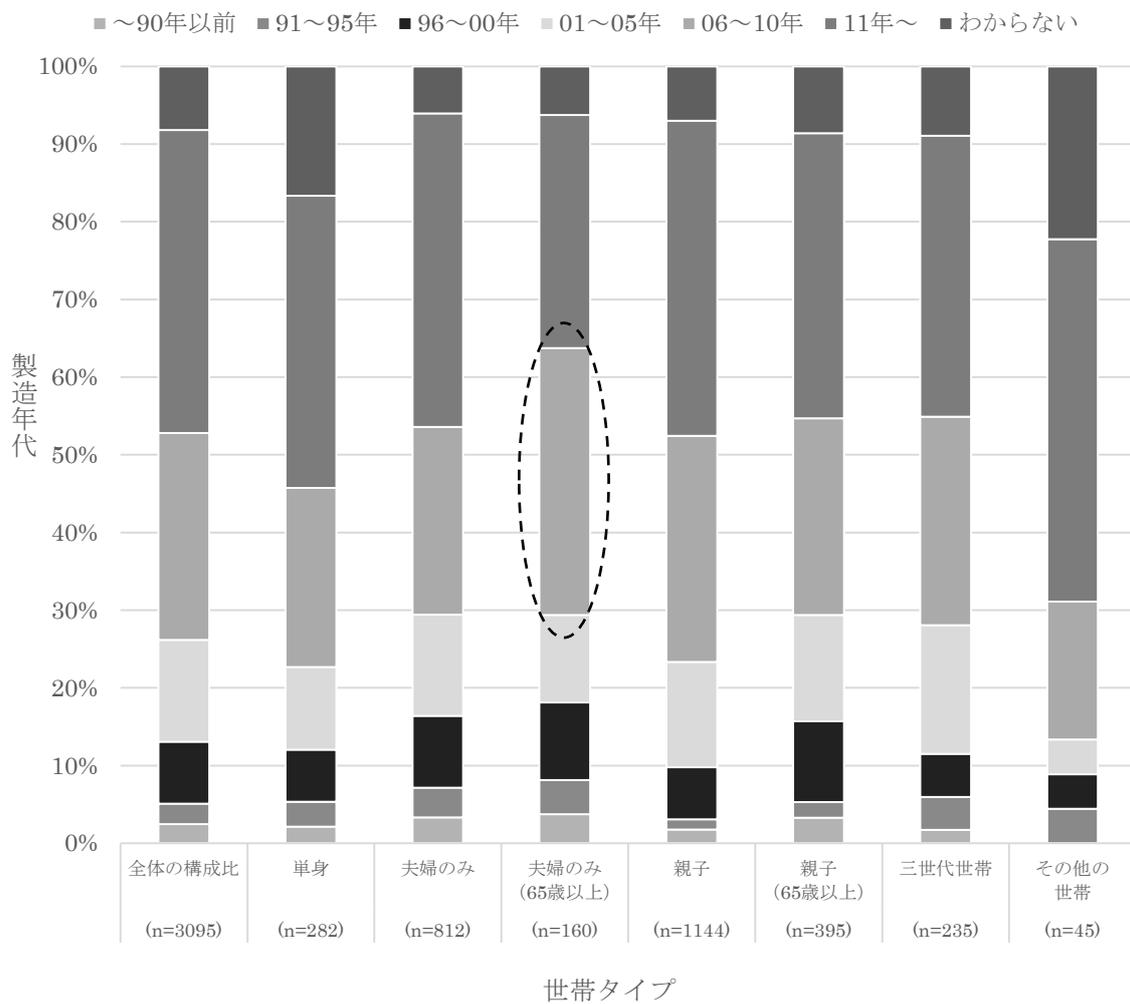


図 3-13 世帯タイプと暖房製造年代との関係（無回答除く）

3.14 使用する機器の製造年代と建築年代の関係

使用する機器の製造年代と建築年代の関係について見ると、家を建てた、購入した際に設置した機器をそのまま使用している傾向が見られ、とくに「91年～95年」、「96年～00年」、「01年～05年」に建てられた住宅については、それぞれに対応した年代の冷暖房機器保有割合が高かった（図 3-14、図 3-15）。

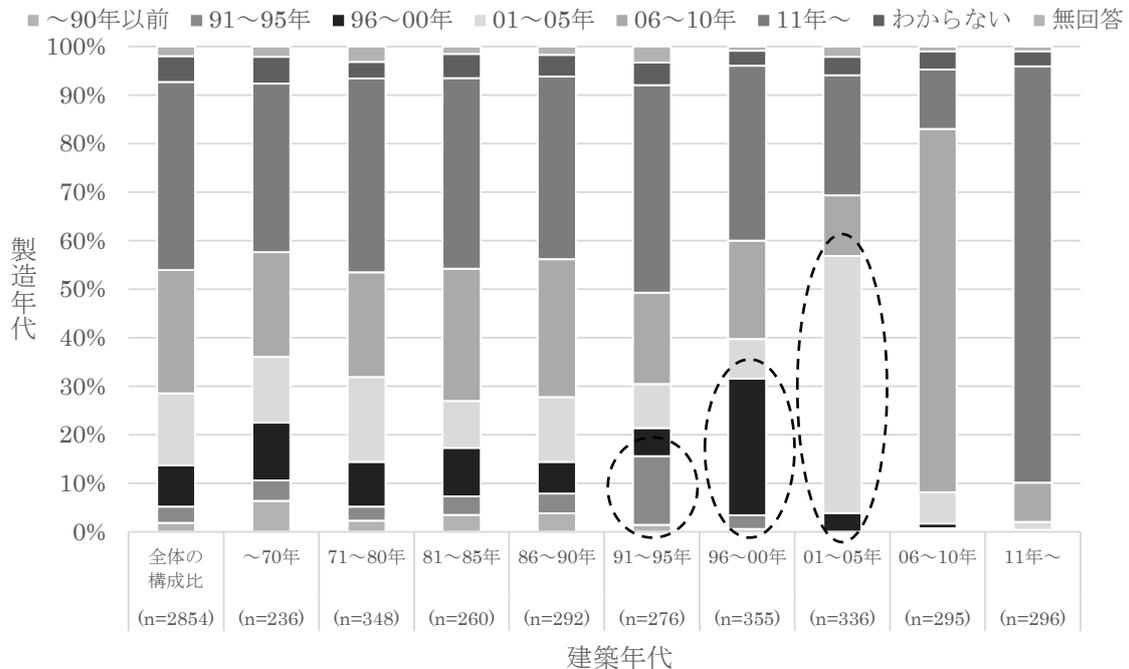


図 3-14 建築年代と冷房（エアコン）製造年代との関係

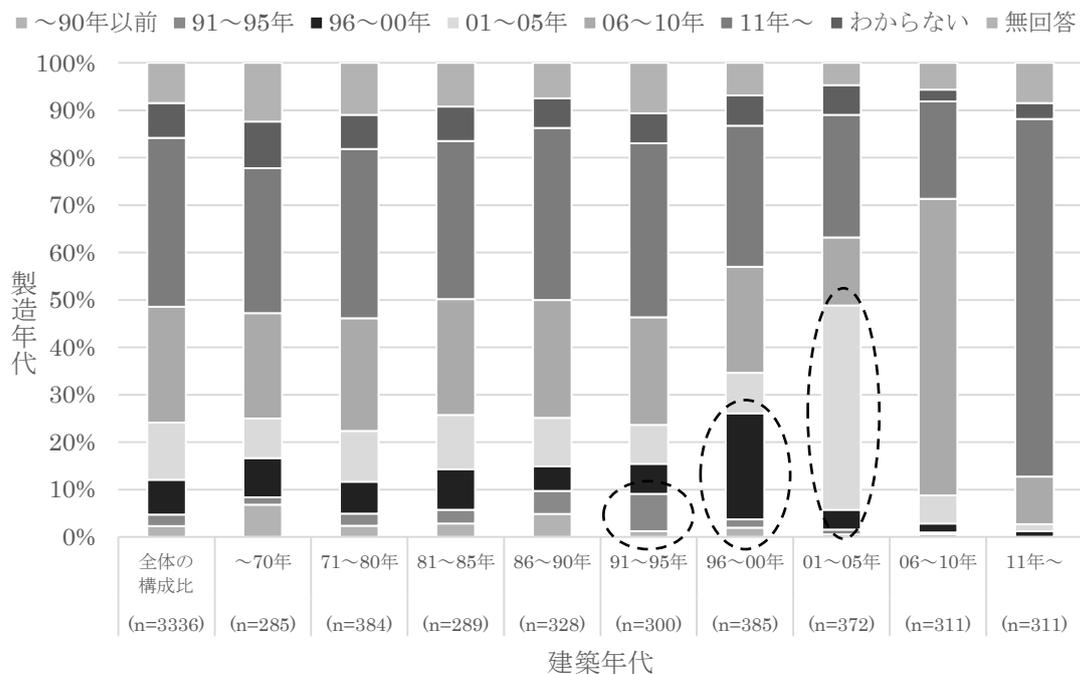


図 3-15 建築年代と暖房製造年代との関係

3.15 省エネ行動と断熱設計の配慮との関係

省エネ行動選択数と断熱設計の配慮との関係を図 3-16、図 3-17 に示す。省エネ行動選択数の多い世帯ほど、何らかの断熱設計の配慮している傾向が高くなった。

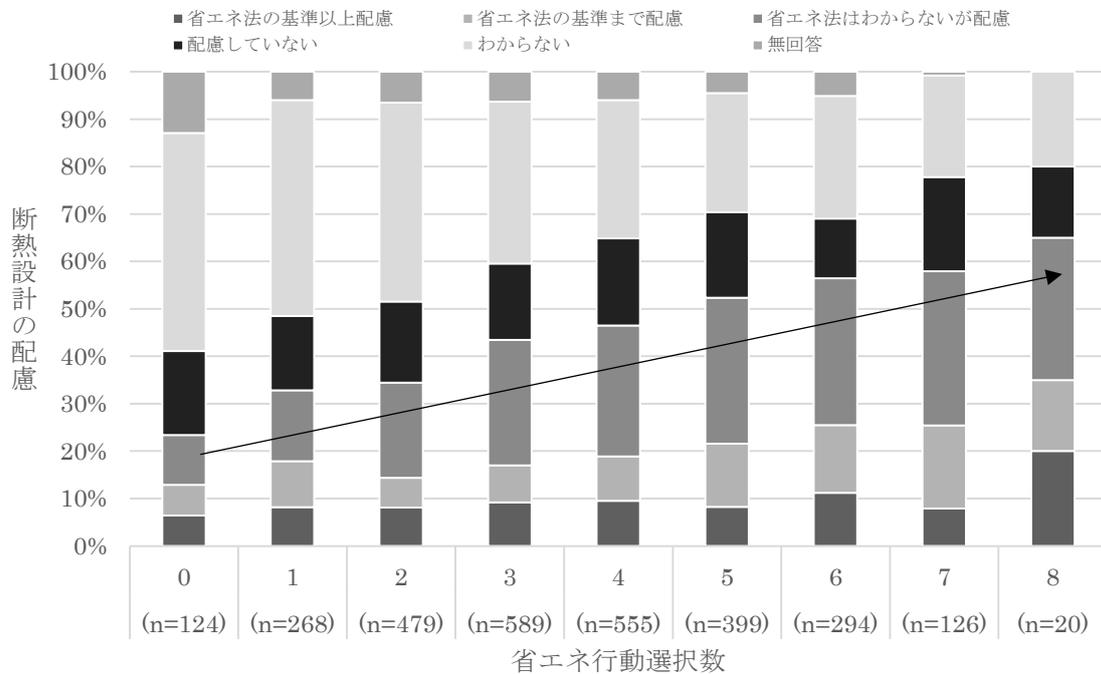


図 3-16 夏場の省エネ行動と断熱設計の配慮との関係

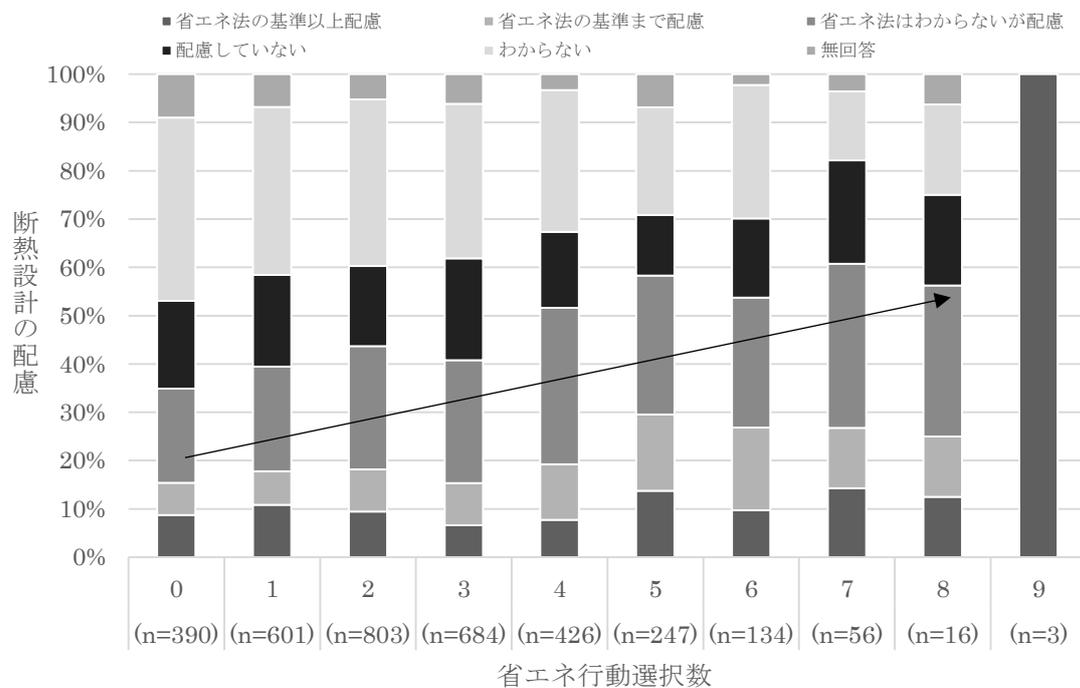


図 3-17 冬場の省エネ行動と断熱設計の配慮との関係

3.16 省エネ行動と設定温度の関係

省エネ行動選択数と設定温度の関係を図 3-18、図 3-19 に示す。省エネ行動選択数の多い世帯ほど、冷暖房の設定温度として推奨されている「28℃」、「20℃」に設定している世帯が多くなる傾向が見られた。

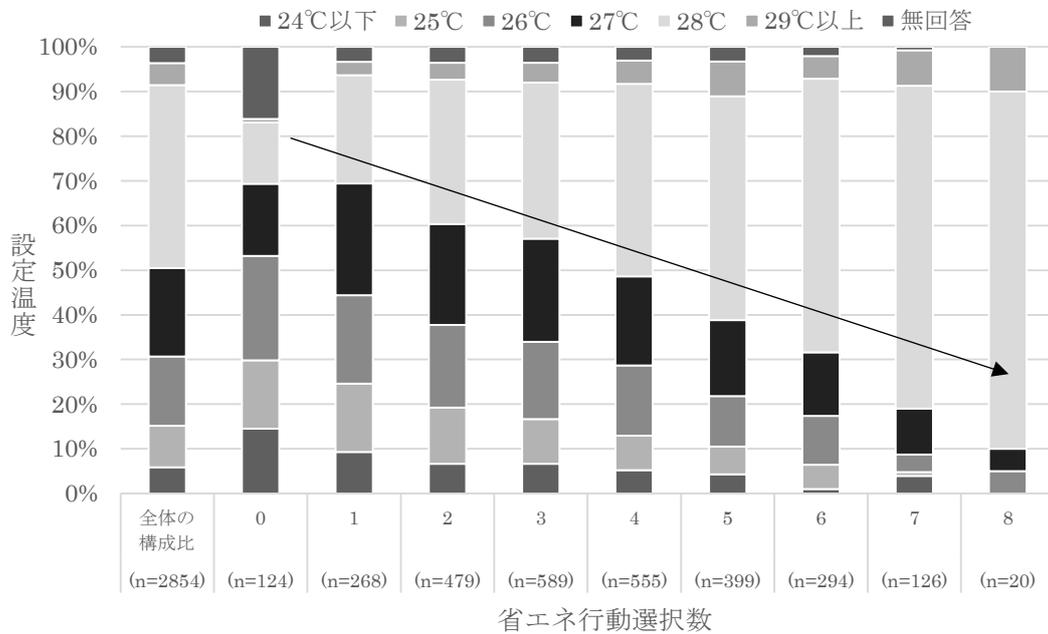


図 3-18 夏場の省エネ行動と冷房（エアコン）設定温度との関係（使い始め）

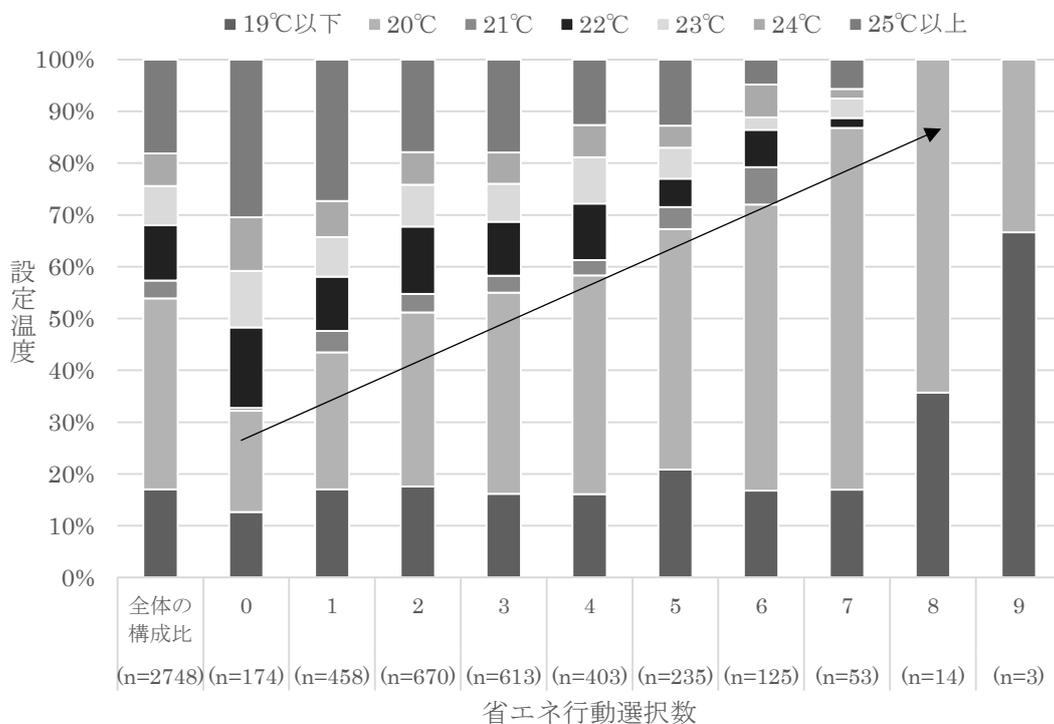


図 3-19 冬場の省エネ行動選択数別暖房の設定温度（使い始め）

3.17 まとめ

1) 冷暖房の使い方と地域区分との関係

冷暖房の使用期間を見ると、地域区分（表 2-1）に対応した明瞭な違い、すなわち、寒冷的な地方ほど冷房使用期間が短く、暖房使用期間が長いというような傾向が見られ、使用率 50%を基準に見ると、北海道や東北を含む I+II 地域と V+VI 地域では最大で約 1 か月の差が見られた（図 3-1、図 3-5）地域区分と夏場のエアコンの設定温度の関係について、推奨温度である 28℃を基準に地域ごとに比較すると、寒冷地（ここでは I～III 地域）の方が 28℃よりも低い設定温度にしている傾向が見られ、寒冷地と温暖地域との明瞭な差は見られなかった。（図 3-3）。

このような傾向については、単純な外気温の差だけが影響しているのではなく、地域における住民の暑さ、寒さへの順応度合の違いや、地域に合わせた家のつくりの違い等が影響しているものと考えられ、これらを考慮したさらなる調査が必要だと考える。

このような地域ごとの冷暖房の使用期間や設定温度等のデータについては、「同一地域の他の世帯と比較して、自身の家庭ではどのような冷暖房の使い方をしているのか」など、気づきにつなげる資料として活用できると考えられ、使い方を変えた時の CO₂ 排出削減量や電気料金の削減等のデータと併用することによって、効果的な普及啓発につながるものと考えられる。

2) 古い機器を使用している世帯について

製造から 10 年以上が経過した 2005 年以前の機器を保有している世帯が数多く存在しており、冷房（エアコン）では全体の 28.5%（表 3-8）、暖房では全体の 23.9%を占めていた（表 3-12）。

使用している冷房（エアコン）の製造年代と世帯タイプとの関係を見ると、「親子」世帯及び「その他の世帯」を除き、約 30%が 2005 年以前の機器を保有していた（図 3-12）。その中でも 65 歳以上の住人を含む世帯と「三世帯世帯」で若干保有割合が高い傾向が見られた。世帯タイプと暖房製造年代の関係を見ると、2005 年以前の機器を使用している世帯タイプに特徴は見られなかったが、「夫婦のみ（65 歳以上）」の世帯において、2006～2010 年製の機器の保有割合が全体の約 30%と高い傾向が見られた（図 3-13）。

使用する機器の製造年代と住宅の建築年代の関係を見ると、家を建てた、購入した際に設置した機器をそのまま使用している傾向が見られ、とくに「91 年～95 年」、「96 年～00 年」、「01 年～05 年」に建てられた住宅については、年代に対応した機器の保有割合が高かった（図 3-14、図 3-15）。機器買替の予定については約 70%が「当面予定なし」であり（図 3-10）、不調や故障が起きない限り買い替えない世帯が約 75%となった（図 3-11）。このように、買替ポテンシャルは高くはないが、65 歳以上の住人を含む世帯や 2005 年以前に建てられた住宅に住む世帯をターゲットとして機器買替のメリットや他の世帯の新しい機器への買替状況等を示しながら普及啓発を行うことで、一定の効果が得られるものと考えられる。

3) 省エネ行動と冷暖房の使い方との関係

省エネ行動選択数と断熱設計の配慮、冷暖房の設定温度について見ると、省エネ行動選択数の多い世帯ほど、断熱設計に配慮している傾向が見られた(図 3-16、図 3-17)、また、設定温度も推奨されている冷房時 28℃、暖房時 20℃に設定している世帯が多い傾向が見られた(図 3-18、図 3-19)。このことから、地域特性や世帯属性によっても冷暖房の使い方にはそれぞれ傾向が認められたが、このような省エネ意識の違いが、冷暖房の使い方等に大きく影響を与えることが示唆された。

参考資料

- 冷蔵庫の使用実態調査票
- 冷暖房の使用実態調査票

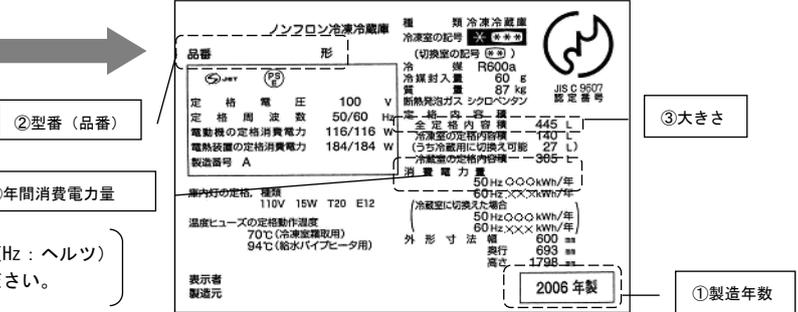
冷蔵庫の使用実態調査票

環境省委託業務「地域での地球温暖化防止活動基盤形成事業」の一環として、家庭からの温室効果ガス排出実態調査を実施しています。あなたのアンケート回答が国の施策に活かされます！ぜひご協力ください！

※空欄にご記入ください。また、当てはまる口に✓を入れてください。

- ご自宅に冷蔵庫は何台ありますか。 _____ 台
(数値を記入)
- それぞれの冷蔵庫の情報についてご記入ください。 ※1台しか持っていない場合は、2台目以降は空欄で結構です。4台以上持っている方は、主に使用している3台目までをご記入ください。

※製造年、年間消費電力量や大きさは、冷蔵庫の扉の内側等に貼られた品質ラベルに記載されています。



お住まいの地域の周波数 (Hz: ヘルツ) の消費電力量をご記入ください。

	メインで使っているもの	2台目	3台目
①製造年数 (わからない場合はおおよその年を記入)	西暦 年	西暦 年	西暦 年
②型番 (品番) (わかる場合だけ記入して下さい)			
③ 大きさ	※ 正確にわかる場合 リットル	リットル	リットル
	※ 正確にわからない場合 □1) 大型 (背丈くらい) □2) 中型 (胸くらい) □3) 小型 (腰くらい)	□1) 大型 (背丈くらい) □2) 中型 (胸くらい) □3) 小型 (腰くらい)	□ 大型 (背丈くらい) □ 中型 (胸くらい) □ 小型 (腰くらい)
④ 年間消費電力量 (わかる場合だけ記入して下さい)	KWh/年	KWh/年	KWh/年
⑤ 中身の詰め具合 (普段の状況をお答えください)	□1) 1～2割 □2) 3～5割 □3) 6～8割 □4) ほぼ満杯	□1) 1～2割 □2) 3～5割 □3) 6～8割 □4) ほぼ満杯	□1) 1～2割 □2) 3～5割 □3) 6～8割 □4) ほぼ満杯
⑥ 設定温度 (記入日時点)	□1) 弱 □2) 中 □3) 強 □4) ECOモード等 □5) わからない	□1) 弱 □2) 中 □3) 強 □4) ECOモード等 □5) わからない	□1) 弱 □2) 中 □3) 強 □4) ECOモード等 □5) わからない
⑥-1 季節によって設定温度を変えていますか	□1) 変えている □2) 変えていない	□1) 変えている □2) 変えていない	□1) 変えている □2) 変えていない
⑦ 買い替えの予定	□1) 今年度中にも □2) 3年以内を目途に □3) 当面は予定なし	□1) 今年度中にも □2) 3年以内を目途に □3) 当面は予定なし	□1) 今年度中にも □2) 3年以内を目途に □3) 当面は予定なし
⑧ 買い替えの基準	□1) 壊れたら □2) 不調・不便を感じたら □3) 省エネにつながるなら □4) 元が取れるなら □5) その他 ()	□1) 壊れたら □2) 不調・不便を感じたら □3) 省エネにつながるなら □4) 元が取れるなら □5) その他 ()	□1) 壊れたら □2) 不調・不便を感じたら □3) 省エネにつながるなら □4) 元が取れるなら □5) その他 ()
⑨ 2台以上使用する理由		□1) 二世帯住宅だから □2) 1台目が小さいから □3) 1台目の場所が遠いから □4) その他 ()	□1) 二世帯住宅だから □2) 1台目が小さいから □3) 1台目の場所が遠いから □4) その他 ()
⑩ 使用停止の可能性について、お答えください		□1) 使用停止は難しい □2) 少々困るが、使用停止の可能性あり □3) 使用を停止しても困らない	□1) 使用停止は難しい □2) 少々困るが、使用停止の可能性あり □3) 使用を停止しても困らない

3. 冷蔵庫を購入する際に重視する点について、上位3つをお答えください。

第1位 _____

第2位 _____

第3位 _____



- | | |
|-------------------------------|-----------------|
| 1 冷蔵庫のサイズ（高さ・幅・奥行など、設置場所に入るか） | 3 価格 |
| 2 メーカー | 5 ノンフロンタイプであること |
| 4 省エネ性能 | 7 その他（ ） |
| 6 特になし | |

4. 冷蔵庫の省エネとして常に取り組んでいることは何ですか。（複数回答可）

- | | | |
|--|---|--|
| <input type="checkbox"/> 1) 開けている時間を短くする | <input type="checkbox"/> 2) 壁から適切な距離にする | <input type="checkbox"/> 3) 熱いものは冷ましてから入れる |
| <input type="checkbox"/> 4) ものを詰め込みすぎない | <input type="checkbox"/> 5) 無駄な開閉をしない | <input type="checkbox"/> 6) 設定温度は適切にしている |
| <input type="checkbox"/> 7) 冷蔵庫カーテンの使用 | <input type="checkbox"/> 8) 特になし | |
| <input type="checkbox"/> 9) その他（ ） | | |

5. 世帯構成についてお答えください。

世帯人数	人	世帯タイプ
		<input type="checkbox"/> 1) 単身世帯 <input type="checkbox"/> 2) 夫婦のみの世帯 <input type="checkbox"/> 3) 夫婦のみの世帯（65歳以上） <input type="checkbox"/> 4) 親子世帯 <input type="checkbox"/> 5) 親子世帯（親が65歳以上） <input type="checkbox"/> 6) 三世帯世帯 <input type="checkbox"/> 7) その他の世帯

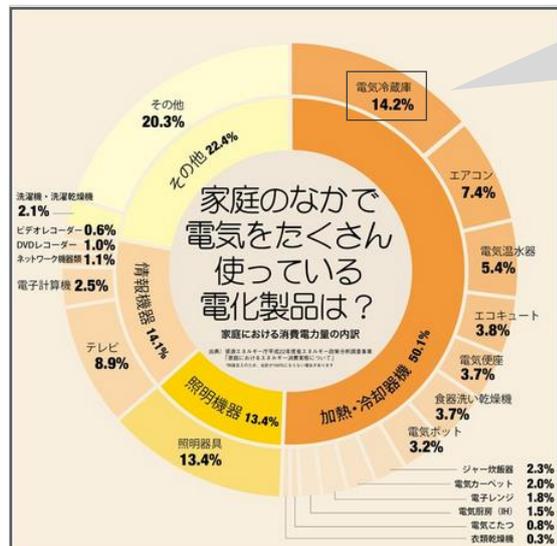
6. 現在お住まいの市町村をご記入ください。

〒 -	(都・道・府・県)	(市・区・町・村)
-----	-----------	-----------

～ 自由回答 ～

省エネ等で取り組んでいることや疑問に思っていること、調査の感想など、ご自由にご記入ください。

ありがとうございました！



家庭のなかで電気をたくさん使っている電化製品は冷蔵庫です！

省エネのコツ

- 熱いものは冷ましてからいれましょう！
冷やすのに余分なエネルギーが消費されてしまいます。
- 冷蔵庫の中身の整理をしましょう！
常温で保存できるもの、未開封の缶詰や調味料は冷蔵庫に入れないようにしましょう。
- 温度を調整しましょう！
温度設定を「強」から「中」や「弱」にすると省エネになります。

資料：資源エネルギー庁平成22年度省エネルギー政策分析調査事業「家庭におけるエネルギー消費実態について」「省エネ性能カタログ」

冷暖房の使用実態調査票

環境省委託業務「地域での地球温暖化防止活動基盤形成事業」の一環として、家庭からの温室効果ガス排出実態調査を実施しています。あなたのアンケート回答が国の施策に活かされます！ぜひご協力ください！
※空欄にご記入ください。また、当てはまる口に✓を入れてください。

1. お住まいについて

(1) ご自宅住所	〒 -	(都・道・府・県)	(市・区・町・村)
(2) 家のつくり	<input type="checkbox"/> 1) 一戸建て <input type="checkbox"/> 2) 集合 <input type="checkbox"/> 3) その他	<input type="checkbox"/> 3) 家の所有	<input type="checkbox"/> 1) 持ち家 <input type="checkbox"/> 2) 持ち家でない
(4) 建築年代	<input type="checkbox"/> 1) 1970 (昭和 45) 年以前 <input type="checkbox"/> 2) 1971～1980 (昭和 46～55) 年 <input type="checkbox"/> 3) 1981～1985 (昭和 56～60) 年 <input type="checkbox"/> 4) 1986～1990 (昭和 61～平成 2) 年 <input type="checkbox"/> 5) 1991～1995 (平成 3～7) 年	<input type="checkbox"/> 6) 1996～2000 (平成 8～12) 年 <input type="checkbox"/> 7) 2001～2005 (平成 13～17) 年 <input type="checkbox"/> 8) 2006～2010 (平成 18～22) 年 <input type="checkbox"/> 9) 2011 (平成 23) 年以降 <input type="checkbox"/> 10) わからない	
(5) 断熱設計の配慮	<input type="checkbox"/> 1) 省エネ法の基準以上配慮している <input type="checkbox"/> 2) 省エネ法の基準まで配慮している <input type="checkbox"/> 3) 省エネ法はわからないが配慮している	<input type="checkbox"/> 4) 配慮していない <input type="checkbox"/> 5) わからない	

2. 世帯構成について

(1) 世帯人数	人	(2) 平日日中の在宅状況	<input type="checkbox"/> 1) ほぼ毎日いる <input type="checkbox"/> 3) 週 1～2 日いる <input type="checkbox"/> 2) 週 3～4 日いる <input type="checkbox"/> 4) ほとんどいない
(3) 世帯タイプ	<input type="checkbox"/> 1) 単身世帯 <input type="checkbox"/> 2) 夫婦のみの世帯 <input type="checkbox"/> 3) 夫婦のみの世帯 (65 歳以上) <input type="checkbox"/> 4) 親子世帯	<input type="checkbox"/> 5) 親子世帯 (親が 65 歳以上) <input type="checkbox"/> 6) 三世帯世帯 <input type="checkbox"/> 7) その他の世帯	

3. 冷房等の使い方について

(1) 夏季の冷房等 (エアコン、扇風機など) の使用について	<input type="checkbox"/> 1) エアコンを使用している <input type="checkbox"/> 2) エアコンは使用せず扇風機等を使用している <input type="checkbox"/> 3) 何も使用していない ※扇風機等とエアコンを併用している場合は、「エアコンを使用している」をご選択ください。 ※「何も使用していない」とお答えの方は (8) にお進みください。					
(2) 最も冷房等を使用する部屋を一つお書きください。 (例：1 ルーム、リビング、寝室、子供部屋 等)	(3) 最も冷房等を使用する部屋の広さ (1 畳=約 1.66 m ²)	<input type="checkbox"/> 1) 4 畳半～ <input type="checkbox"/> 6) 15 畳～ <input type="checkbox"/> 2) 6 畳～ <input type="checkbox"/> 7) 20 畳～ <input type="checkbox"/> 3) 8 畳～ <input type="checkbox"/> 8) 25 畳～ <input type="checkbox"/> 4) 10 畳～ <input type="checkbox"/> 9) 30 畳～ <input type="checkbox"/> 5) 12 畳～				
(4) 最も使用される冷房等の製造年代 (製造年代がわからない場合は、購入年代)	<input type="checkbox"/> 1) ～1990 年 (平成 2 年) 以前 <input type="checkbox"/> 2) 1991～1995 (平成 3～7) 年 <input type="checkbox"/> 3) 1996～2000 (平成 8～12) 年 <input type="checkbox"/> 4) 2001～2005 (平成 13～17) 年	<input type="checkbox"/> 5) 2006～2010 (平成 18～22) 年 <input type="checkbox"/> 6) 2011 (平成 23) 年以降 <input type="checkbox"/> 7) わからない				
(5) 冷房等の使用期間 (おおよその時期をお書きください)	①使い始める時期	月 上・中・下旬	②使い終わる時期	月 上・中・下旬		
(6) 平日の平均使用時間 (おおよその時間をお書きください)	①使い始める時期	時間	②厳暑期 (8 月頃)	時間	③使い終わる時期	時間
(7) 室温または設定温度 (よく設定を変える場合は平均的な温度をお書きください)	①使い始める時期	℃	②厳暑期 (8 月頃)	℃	③使い終わる時期	℃
(8) 夏場の省エネ行動として実施していることはありますか？ (複数選択可)						
<input type="checkbox"/> 1) 冷房時の室温は 28℃を目安にしている <input type="checkbox"/> 5) 扇風機やサーキュレーターをエアコンと併用している <input type="checkbox"/> 2) 冷房は必要な時だけ使用する <input type="checkbox"/> 6) 直射日光を遮るようにグリーンカーテンやすだれ等を使っている <input type="checkbox"/> 3) エアコンのフィルター掃除を月に一度は実施している <input type="checkbox"/> 7) 室温に合わせて服装にも気を使っている <input type="checkbox"/> 4) エアコンの室外機吹き出し口に物を置かない <input type="checkbox"/> 8) 特になし <input type="checkbox"/> 9) その他 (冷房を使わず過ごすために実施していることなど、自由にお書きください)						
()						

4. 暖房の使い方について

(1) 日常的に使用している暖房機器は何ですか（複数選択可）。 また、その中で最も使用頻度が高い機器は何ですか。	<input type="checkbox"/> 1) エアコン <input type="checkbox"/> 2) 電気ストーブ類（ストーブ、オイルヒーター等） <input type="checkbox"/> 3) 電気カーペット・こたつ <input type="checkbox"/> 4) ガスストーブ類（ファンヒーター、FF式ストーブ等） <input type="checkbox"/> 5) 灯油ストーブ類（ファンヒーター、FF式ストーブ等） <input type="checkbox"/> 6) 電気蓄熱暖房機（蓄熱レンガ） <input type="checkbox"/> 13) その他（ ）		<input type="checkbox"/> 7) 電気床暖房 <input type="checkbox"/> 8) ガス温水床暖房 <input type="checkbox"/> 9) 灯油温水床暖房 <input type="checkbox"/> 10) セントラル暖房システム <input type="checkbox"/> 11) 薪・木質ペレットストーブ等 <input type="checkbox"/> 12) 使用していない			
	最も使用頻度が高い機器 <u> </u> ←上記機器の番号をお書きください ※「使用していない」とお答えの方は（8）にお進みください。					
(2) 最も暖房を使用する部屋を一つお書きください。 （例：リビング、寝室、子供部屋等）	(3) 最も暖房を使用する部屋の広さ （1畳=約1.66㎡）		<input type="checkbox"/> 1) 4畳半～ <input type="checkbox"/> 2) 6畳～ <input type="checkbox"/> 3) 8畳～ <input type="checkbox"/> 4) 10畳～ <input type="checkbox"/> 5) 12畳～			
(4) 最も使用頻度の高い機器の製造（購入）年代	<input type="checkbox"/> 1) ～1990年（平成2年）以前 <input type="checkbox"/> 2) 1991～1995（平成3～7）年 <input type="checkbox"/> 3) 1996～2000（平成8～12）年 <input type="checkbox"/> 4) 2001～2005（平成13～17）年		<input type="checkbox"/> 5) 2006～2010（平成18～22）年 <input type="checkbox"/> 6) 2011（平成23）年以降 <input type="checkbox"/> 7) わからない			
(5) 暖房の使用期間（おおよその時期をお書きください）	①使い始める時期	月 上・中・下旬	②使い終わる時期	月 上・中・下旬		
(6) 平日の平均使用時間（おおよその時間をお書きください）	①使い始める時期	時間	②厳寒期（1,2月頃）	時間	③使い終わる時期	時間
(7) 室温または設定温度（よく設定を変える場合は平均的な温度をお書きください）	①使い始める時期	°C	②厳寒期（1,2月頃）	°C	③使い終わる時期	°C
(8) 冬場の省エネ行動として実施していることはありますか？（複数選択可）						
<input type="checkbox"/> 1) 暖房時の室温は20°Cを目安にしている <input type="checkbox"/> 2) 暖房は必要な時だけ使用する <input type="checkbox"/> 3) エアコンのフィルター掃除を月に一度は実施している <input type="checkbox"/> 4) エアコンの室外機吹出口に物を置かない <input type="checkbox"/> 5) 室温に合わせて服装にも気を使っている <input type="checkbox"/> 10) その他（暖房を使わず過ごすために実施していることなど、自由にお書きください） （ ）						

5. 省エネ機器への買い替えについて

(1) 買い替えの予定 <input type="checkbox"/> 1) 今年度中にも買い替えたい <input type="checkbox"/> 2) 3年以内を目途に買い替えたい <input type="checkbox"/> 3) すでに省エネ機器を使用している <input type="checkbox"/> 4) 当面買い替える予定はない <input type="checkbox"/> 5) その他（ ）	(2) 買い替えの基準 <input type="checkbox"/> 1) 壊れたら買い替えたい <input type="checkbox"/> 2) 不調を感じたら買い替えたい <input type="checkbox"/> 3) 省エネになるなら買い替えたい <input type="checkbox"/> 4) 電気代が安くなって元が取れるなら買い替えたい <input type="checkbox"/> 5) その他（ ）
---	---

6. 自由回答欄

省エネ等で取り組んでいることや疑問に思っていること、調査の感想など、ご自由にご記入ください。

ありがとうございました！

平成 28 年度

地域での地球温暖化防止活動基盤形成事業委託業務

温室効果ガス排出実態調査

年次レポート

発行 平成 29 年 3 月

問合せ先 一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット
(全国地球温暖化防止活動推進センター)

〒101-0054

東京都千代田区神田錦町 1-12-3 第一アマイビル 4 階

TEL 03-6273-7785 FAX 03-5280-8100

URL <http://www.jccca.org/>